



Kyushu FG

会社説明会

2025年5月

株式会社九州フィナンシャルグループ

Kyushu Financial Group, Inc.

東証プライム上場 証券コード: 7180



I 2025年3月期 決算概要

1. 決算概況	P.4
2. 当期純利益の増減要因	P.5
3. 資金利益	P.6
4. 貸出金	P.7
5. 貸出金利構成	P.8
6. 総預金	P.9
7. 有価証券	P.10
8. 円債・外債の状況	P.11
9. 役務取引等利益	P.12
10. 経費	P.13
11. 与信費用と金融再生法開示債権	P.14
12. 自己資本比率	P.15
13. 業績予想	P.16

II 資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた取り組み

1. 現状分析（当社株価・PBR・ROEの推移）	P.18
2. 当社グループが目指す姿	P.19
3. PBR改善ロジックツリー	P.20
4. ROE向上施策の取り組み状況	P.21

III 第4次グループ中期経営計画「躍進」の進捗状況

1. 2030年に目指す「共創ビジョン」の進捗	P.27
2. 第4次グループ中期経営計画の概要	P.28
3. 【基本戦略1】未来を創る地域価値提供の取り組み加速	P.29
4. 【基本戦略2】地域経済の成長に向けたコア事業の強化	P.30
5. 【基本戦略3】持続的成長に向けた強固な経営基盤の確立	P.32
6. グループとして統合する分野の明確化	P.34
7. 創立10周年について	P.35

計数資料



Kyushu FG

2025年3月期 決算概要

株式会社九州フィナンシャルグループ

Kyushu Financial Group, Inc.



1. 決算概況

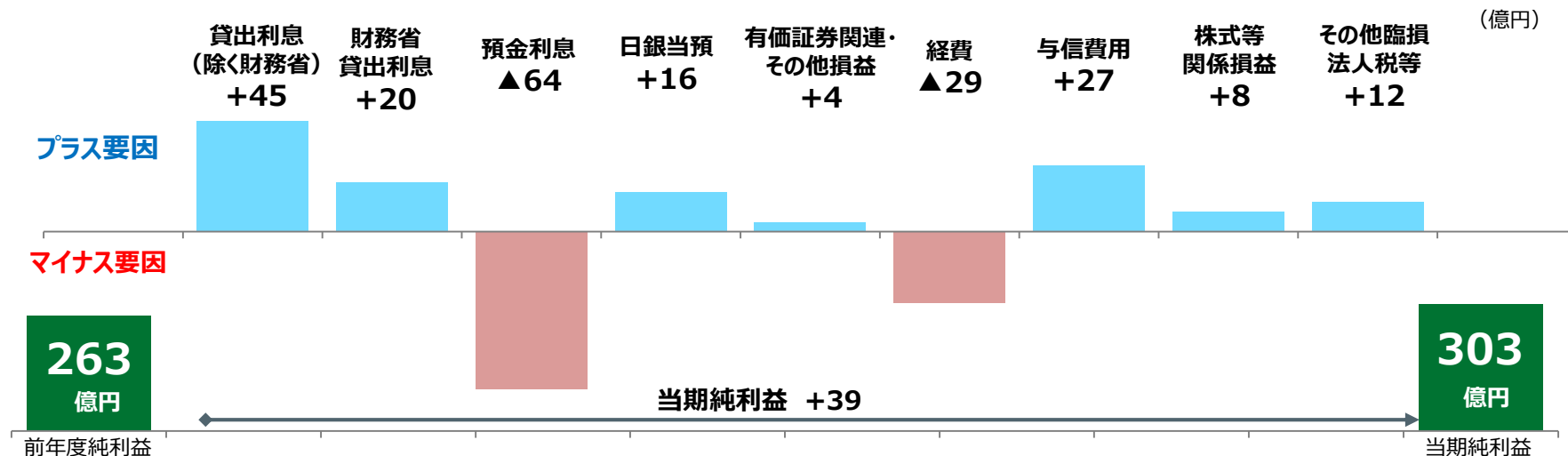
銀行本業の資金利益や役務取引等利益がけん引し、前年度比で増収増益・過去最高を更新

損益状況	KFG連結			2行合算			(億円)
	2025/3		2024/3	2025/3		2024/3	
		前年比			前年比		
経常収益	2,512	287	2,225	2,080	248	1,831	
業務粗利益	1,076	21	1,054	977	10	966	
資金利益	1,037	97	939	1,043	92	951	
役務取引等利益	174	8	166	148	7	140	
特定取引利益	1	▲ 0	1	0	▲ 0	0	
その他業務利益	▲ 137	▲ 83	▲ 53	▲ 215	▲ 89	▲ 125	
(うち国債等債権損益)	▲ 131	▲ 60	▲ 71	▲ 131	▲ 60	▲ 71	
経費 (▲)	806	29	777	730	23	707	
コア業務純益	401	53	348	378	47	330	
一般貸倒引当金繰入額 (▲)	4	▲ 46	51	9	▲ 50	60	
業務純益	264	39	225	236	37	199	
臨時損益	164	6	158	179	▲ 2	182	
不良債権処理額等 (▲)	19	19	▲ 0	11	20	▲ 9	
株式等関係損益	163	8	154	173	0	173	
その他臨時損益	20	17	3	17	17	0	
経常利益	429	45	384	416	34	382	
特別損益	▲ 2	2	▲ 4	▲ 1	▲ 0	▲ 1	
税引前当期純利益	427	48	379	414	33	380	
当期純利益	303	39	263	298	26	271	
(与信費用)	23	▲ 27	50	21	▲ 29	51	

2. 当期純利益の増益要因

預金利息や経費が増加するも利回り改善による貸出利息増や与信費用の改善等により、前年度比で増益

当期純利益の増益要因（K F G連結）



<主なプラス要因>

- 貸出利息、財務省貸出利息 65億円
貸出金利回り +0.05%
- 与信費用(▲) 27億円
金再法開示債権 総与信に占める割合 (2行合算) ▲0.08%
- その他臨損、法人税等 12億円
退職給付費用の運用率改善 +11億円

<主なマイナス要因>

- 預金利息 (▲) 64億円
預金等利回り +0.06%
- 経費 (▲) 29億円
人件費+5 ベア等
物件費+24 保守管理費+5、償却+4、事務委託+4、その他+11

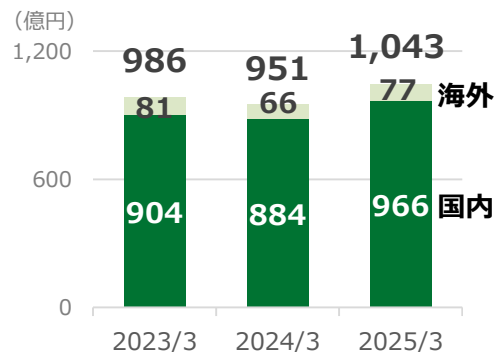
3. 資金利益

資金利益は、貸出金利息・有価証券利息の増加が寄与し前年度比で増加

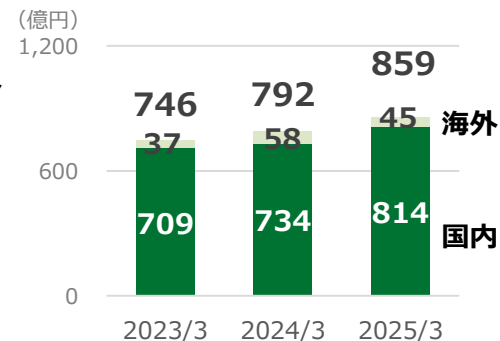
資金利益の状況（2行合算）

	2023/3	2024/3	2025/3	前年度比
資金利益	986	951	1,043	91
国内部門	904	884	966	81
うち貸出金利息	709	734	814	80
うち有価証券利息	195	144	186	41
うち資金調達コスト(▲)	11	23	88	64
国際部門	81	66	77	10
うち貸出金利息	37	58	45	▲13
うち有価証券利息	163	151	180	29
うち資金調達コスト(▲)	120	143	149	5

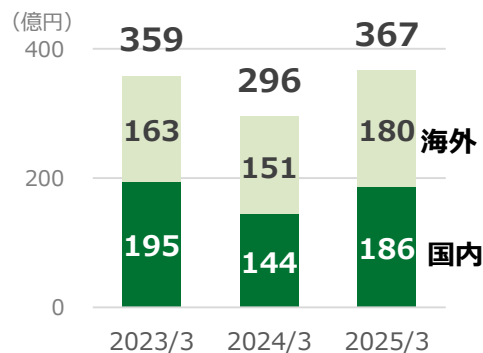
資金利益推移（2行合算）



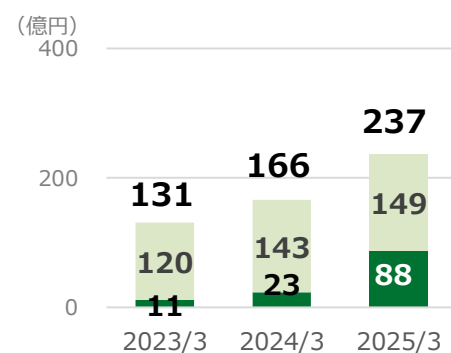
①. 貸出金利息推移（2行合算）



②. 有価証券利息推移（2行合算）



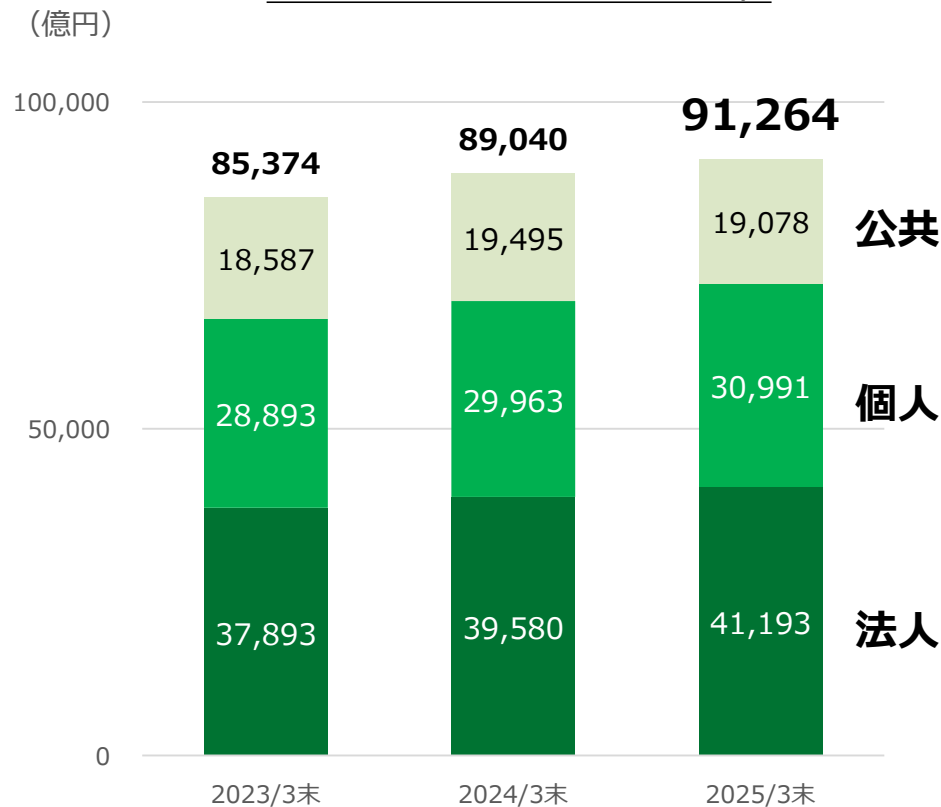
③. 資金調達コスト（2行合算）



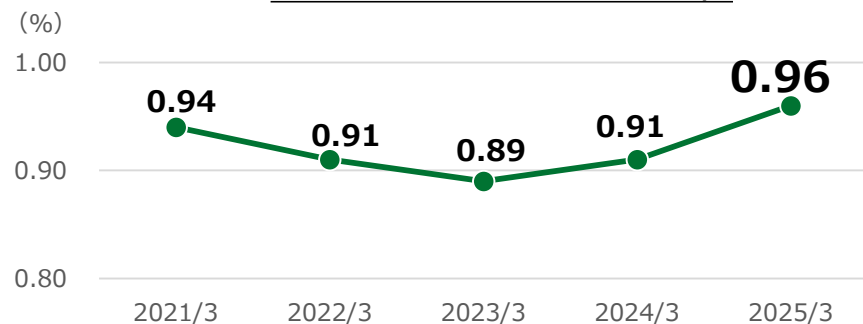
4. 貸出金

貸出残高は個人・法人が増加し利回りも向上、熊本県内の法人向け貸出で高い伸び

貸出金残高の推移（2行合算 残高）

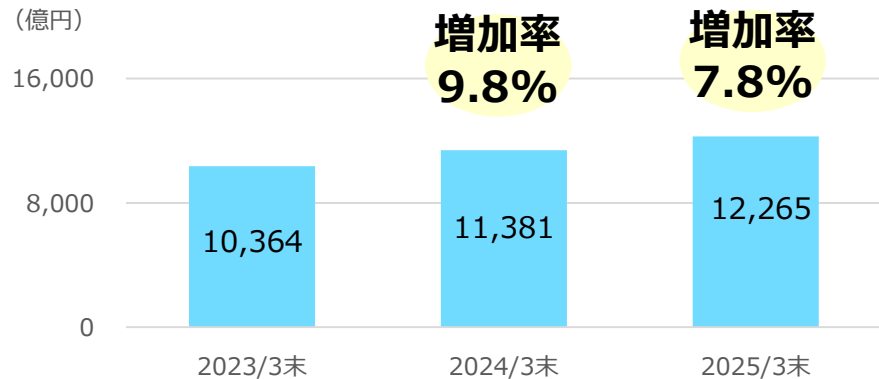


貸出金利回りの推移（2行合算）



肥後銀行

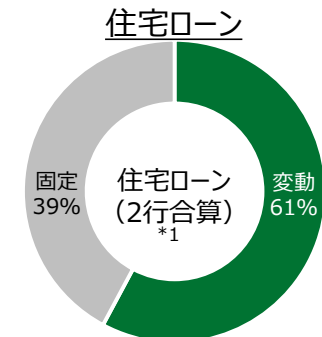
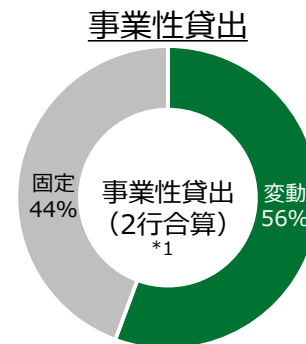
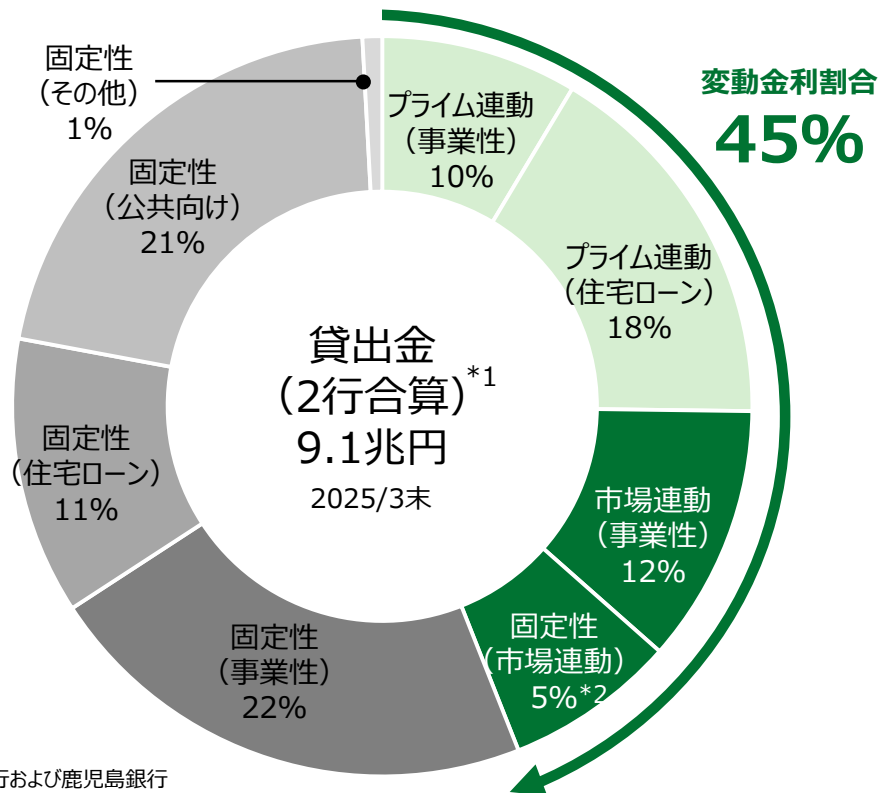
熊本県内法人向け貸出金残高の推移（残高）



5. 貸出金利構成

変動金利は約4割、政策金利の利上げにより着実に収益に貢献

当社の貸出金利構成（2025/3末）



政策金利の利上げによる影響試算

政策金利が0.25%上昇した場合の、
①貸出金利息、②日銀預け金利息、③預金利息による影響

金利引上げから1年間の影響

(業務粗利益)

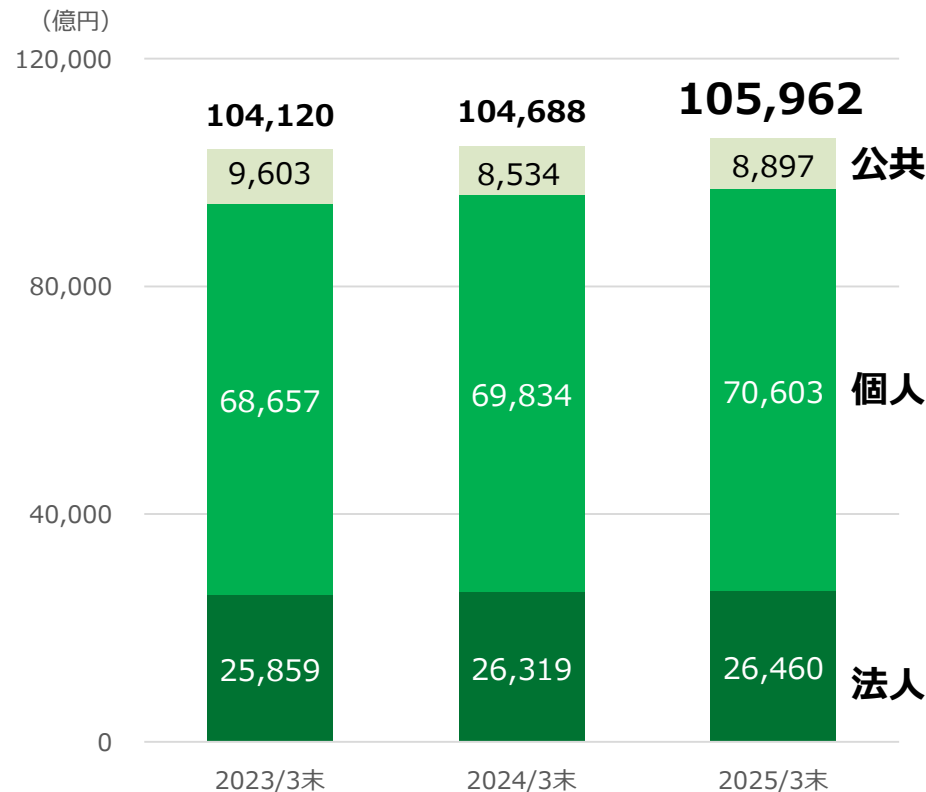
+ 約40億円

- 2025/3末残高（2行合算）をもとに金利上昇をフルスライド
- 預金金利は市場金利の引き上げに伴って上昇すると想定
- その他条件は、政策金利が維持された場合と同条件

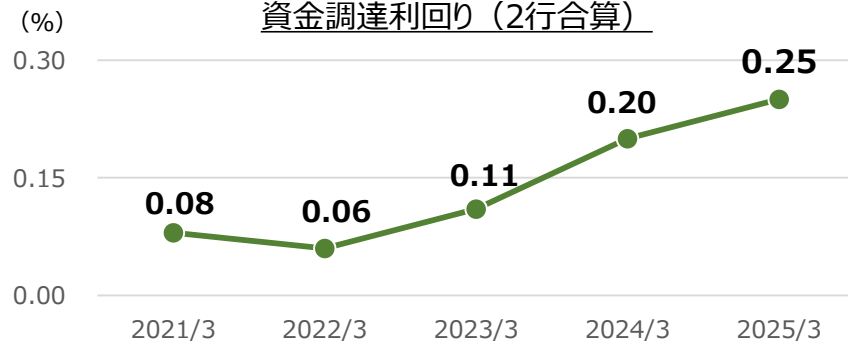
*1 肥後銀行および鹿児島銀行
*2 市場金利との連動性が高い基準金利を使用

総預金残高は堅調に増加、粘着性のある地元預金も着実に増加

総預金残高の推移（2行合算 含むNCD）

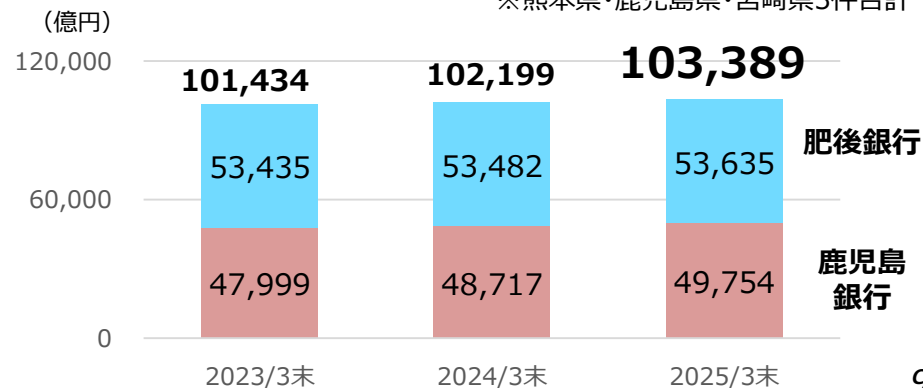


資金調達利回り（2行合算）



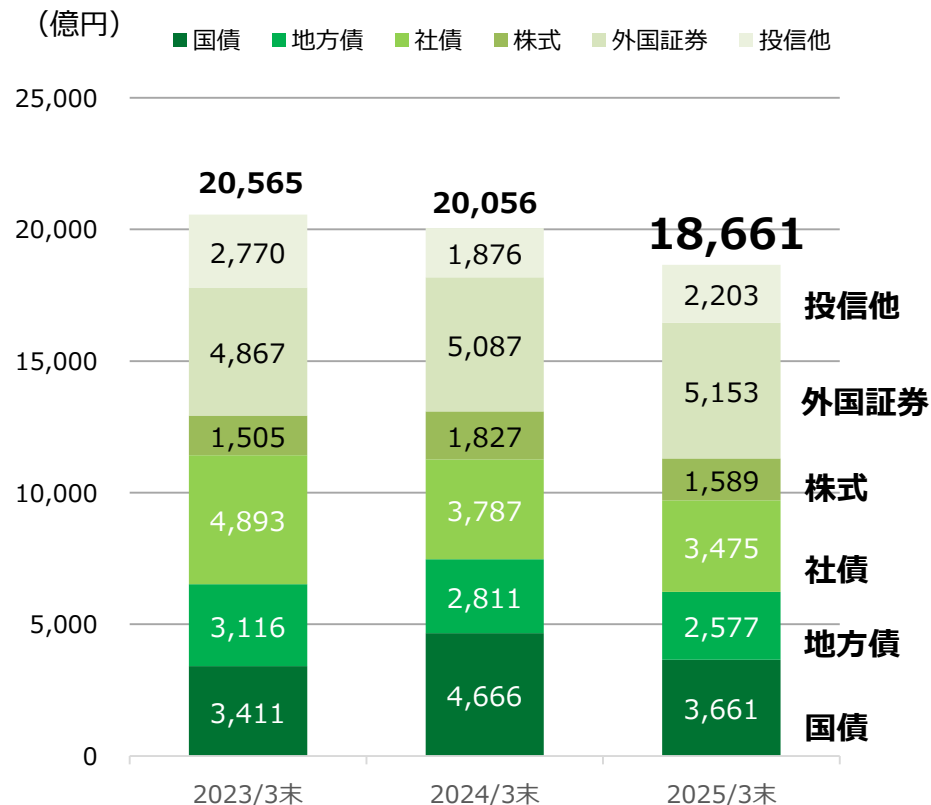
域内※総預金残高（銀行別 残高 含むNCD）

※熊本県・鹿児島県・宮崎県3件合計

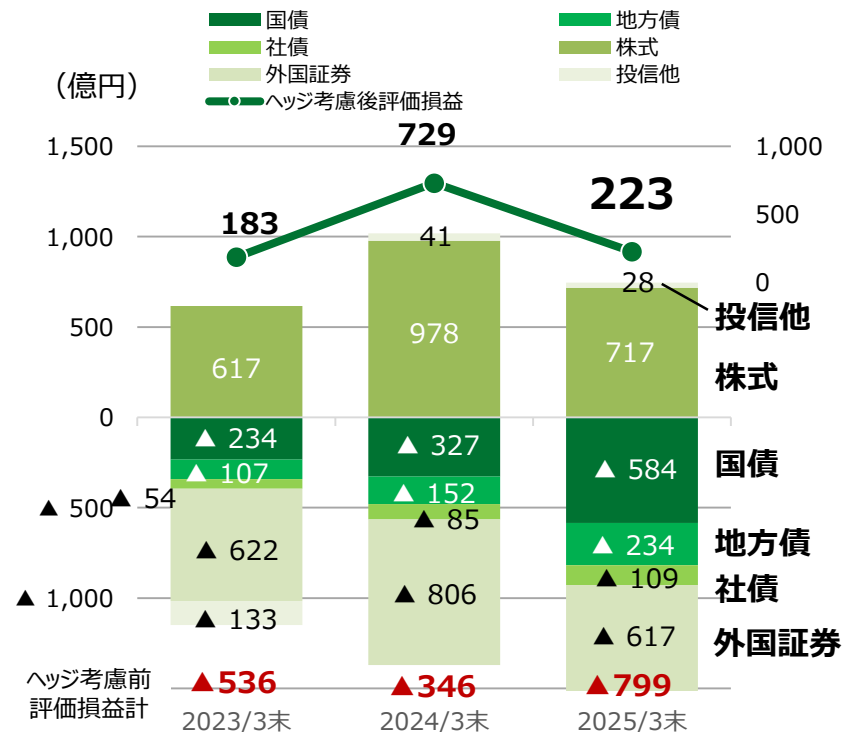


金利上昇局面でターミナルが不透明な状況下にあり、抑制的な運用によるリスク管理を図る

有価証券残高の推移（2行合算）

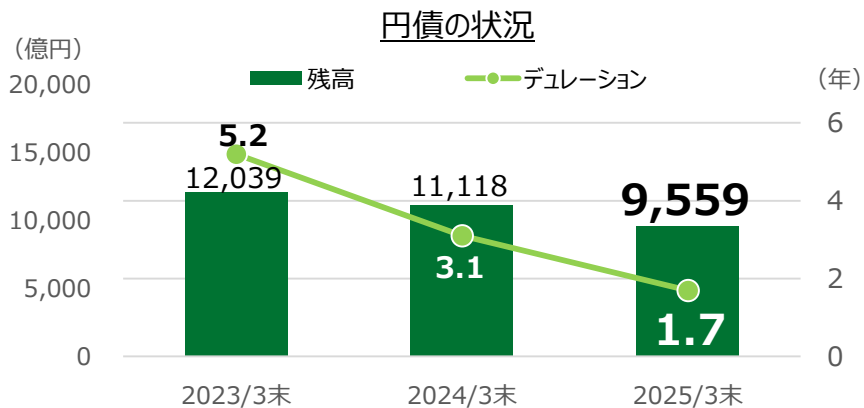


有価証券評価損益の推移（2行合算）



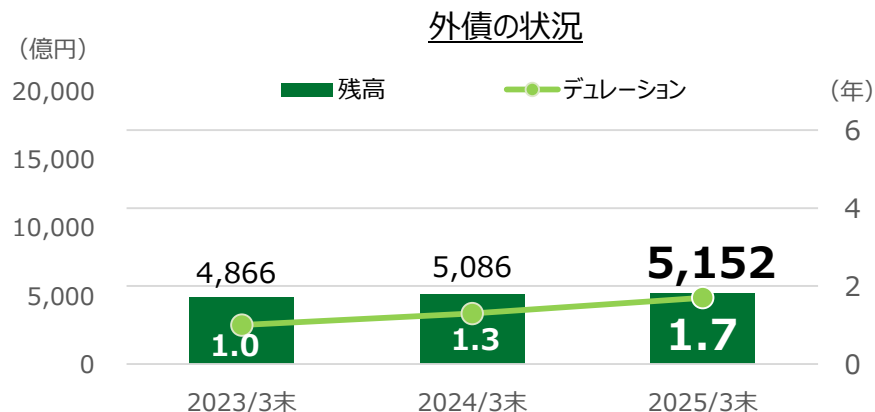
8. 円債・外債の状況

円債・外債ともに入れ替えを進め、デュレーション・金利リスクをコントロール



評価損益 ▲376億円 ▲327億円 ▲527億円

※ 売買目的有価証券及び満期保有目的債券を除く



評価損益 ▲53億円 24億円 6億円

※ 外国籍投信、ユーロ円債、サムライ債を含む

金利上昇時の影響（有価証券評価損益への影響額）

平行に
10bps上昇
した場合の
試算値

円債	▲16億円
外債	▲5億円

※ 1 売買目的有価証券及び満期保有目的債券を除く
※ 2 金利スワップ・債券ベア型ファンドを含む

金利期間別影響額

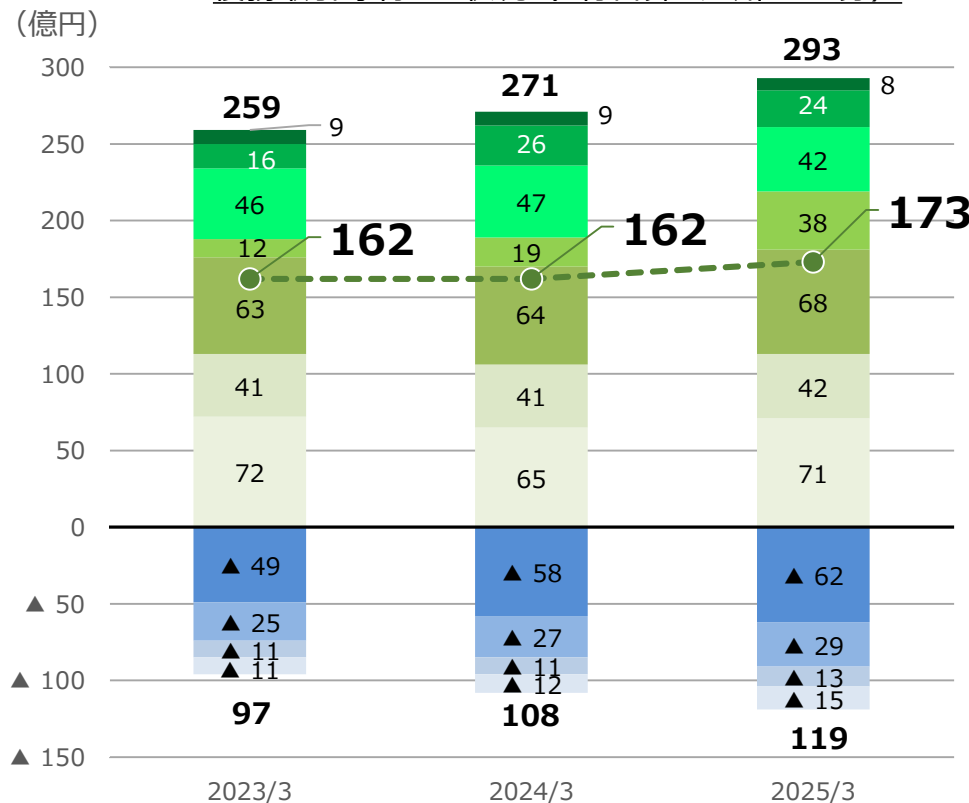
	1年未満	1～3年	3～5年	5～7年	7～10年	10年超
円債	▲0.9	▲3.3	2.4	▲1.1	2.9	▲16.5
外債	▲0.0	▲0.7	▲0.9	▲0.9	▲0.4	▲2.0

(億円)

9. 役務取引等利益

役務取引等利益は、ローン取扱手数料の増加等が牽引し前年度比で増加

役務取引等利益の状況（2行合算+九州FG証券）



収益

- F B 関連
- 法人ソリューション手数料
- 預り資産・信託関係
- ローン取扱手数料等
- 受入為替手数料
- 事務受託・口振手数料
- A T M 関連・その他

費用

- A T M 関連・その他
- 支払為替手数料
- 支払保証料
- 団信保険料

●●● 役務取引等利益

収益の主な増加要因

○ 役務取引等収益

- ・ローン取扱手数料等 +19億円
- ・受入為替手数料 +4億円

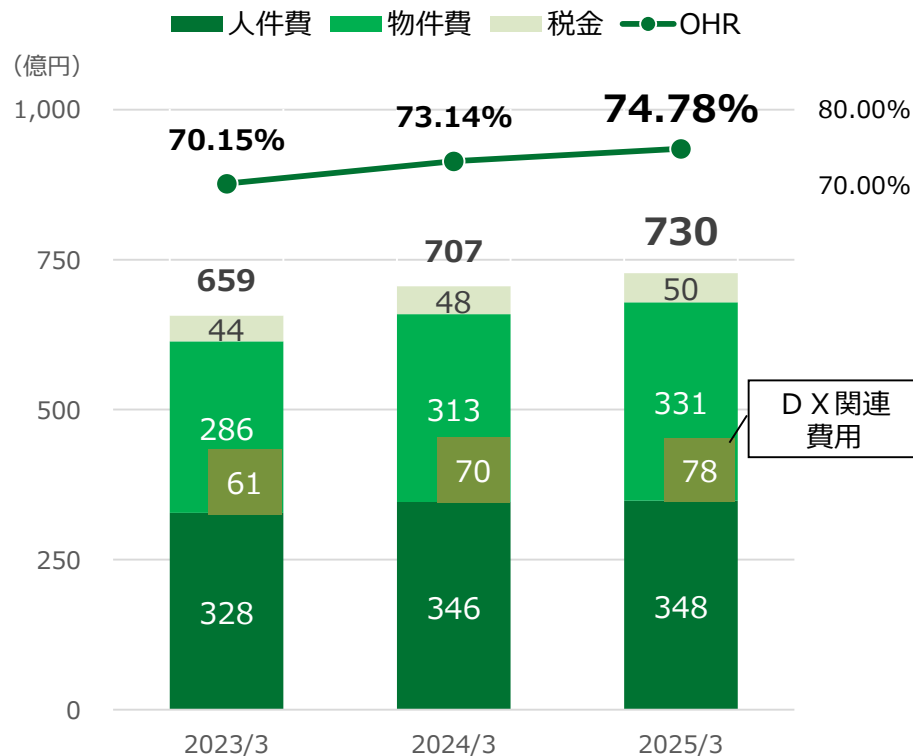
費用の主な増加要因

○ 役務取引等費用

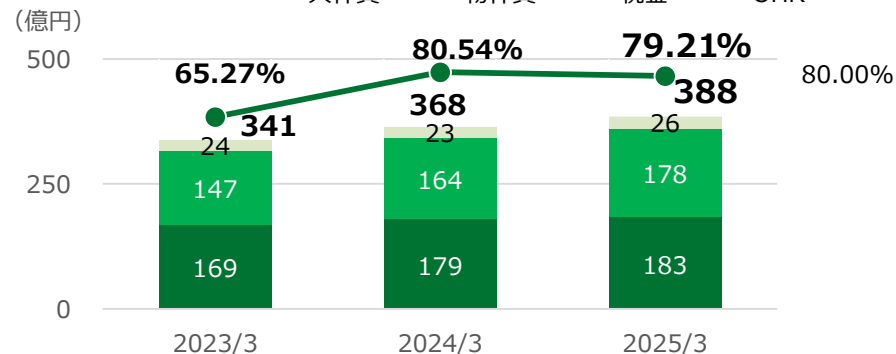
- ・団信保険料 (▲) +4億円
- ・支払保証料 (▲) +2億円

経費は、ベア引上げに伴う人件費・DX関連費用等の物件費増加により前年度比で上昇

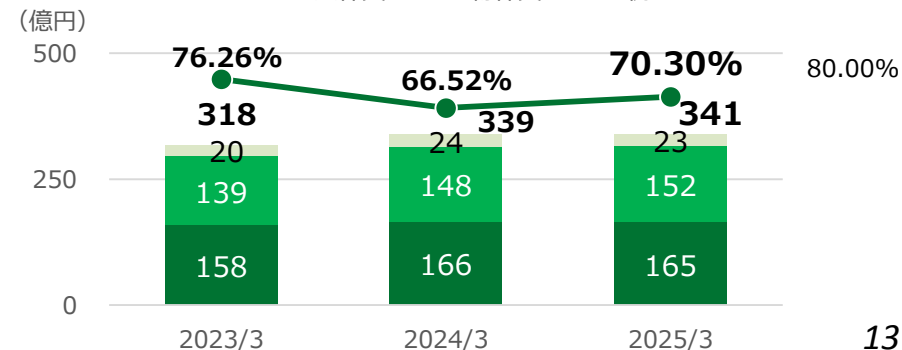
経費の推移（2行合算）



肥後銀行

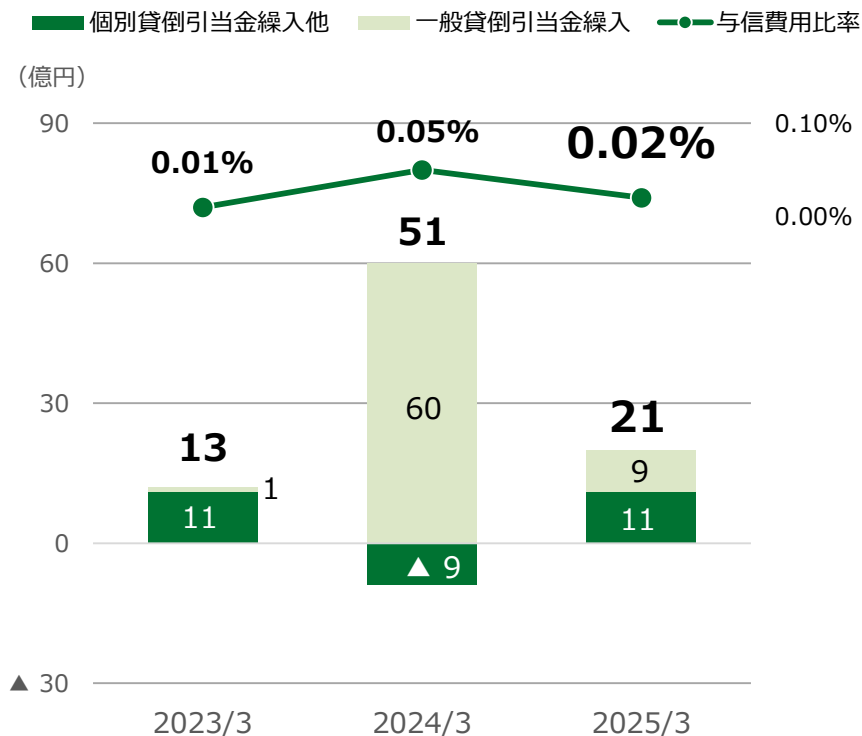


鹿児島銀行

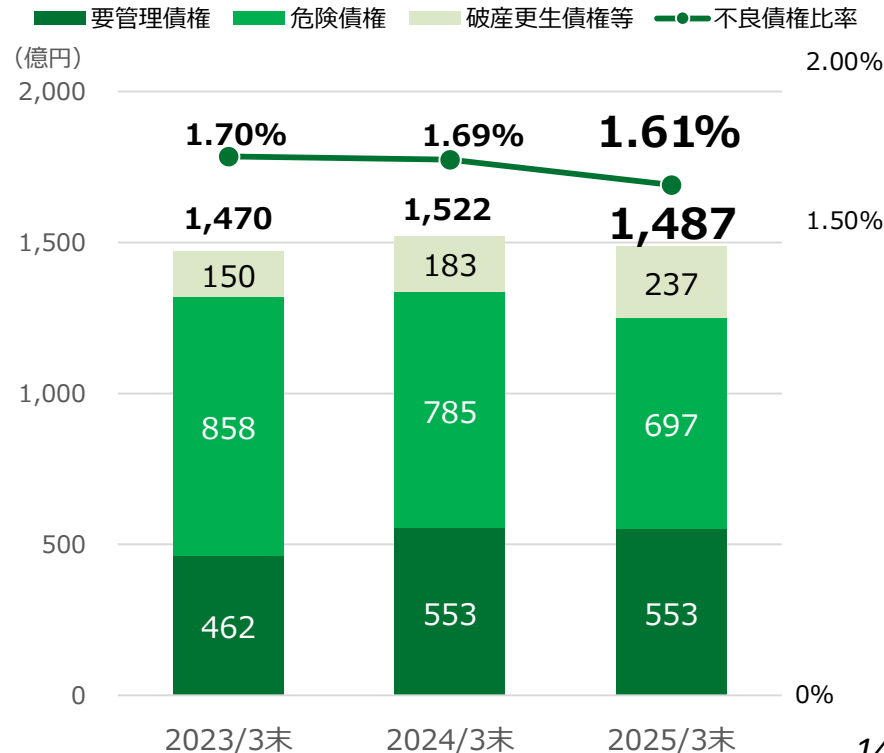


与信費用および金融再生法開示債権残高・不良債権率ともに、前年度比で減少

与信費用の推移（2行合算）



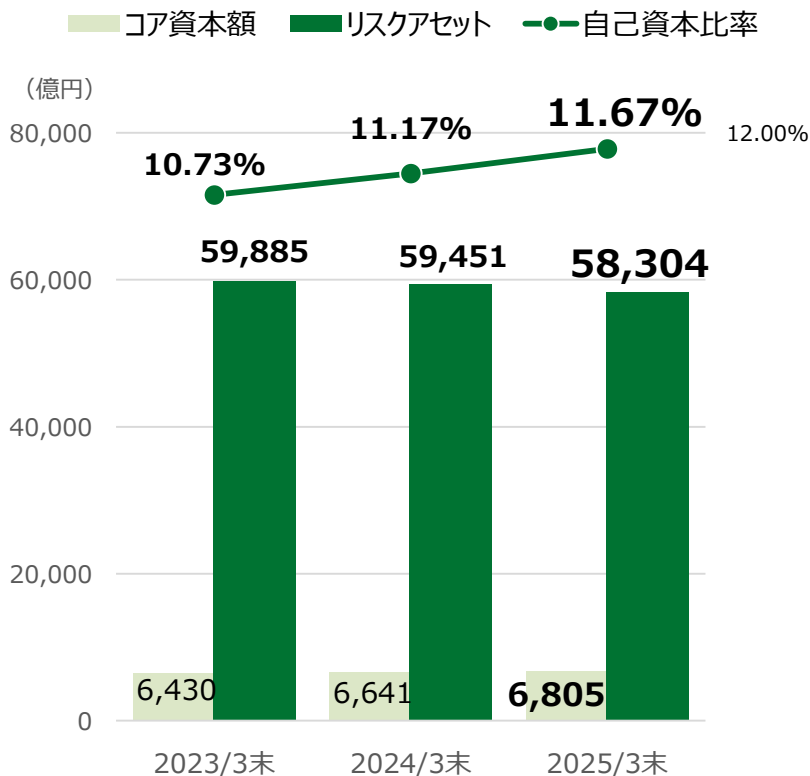
金融再生法開示債権の推移（2行合算）



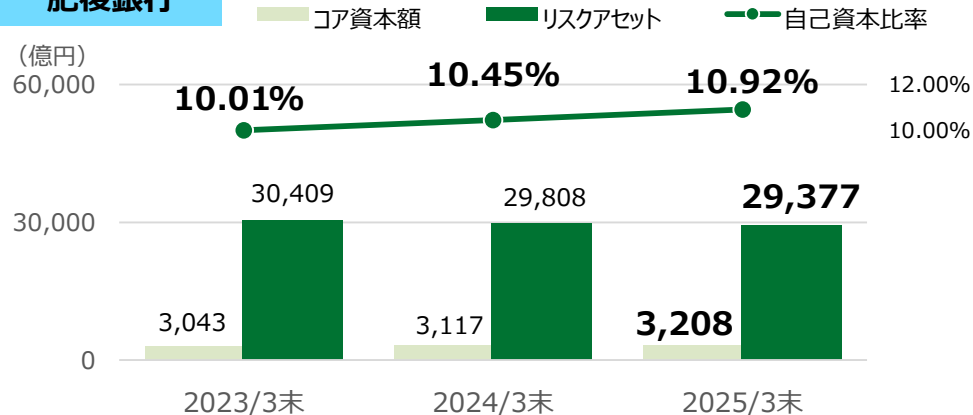
12. 自己資本比率

自己資本比率は、バーゼルⅢ最終化等に伴うリスクアセット減少により11%台半ばに上昇

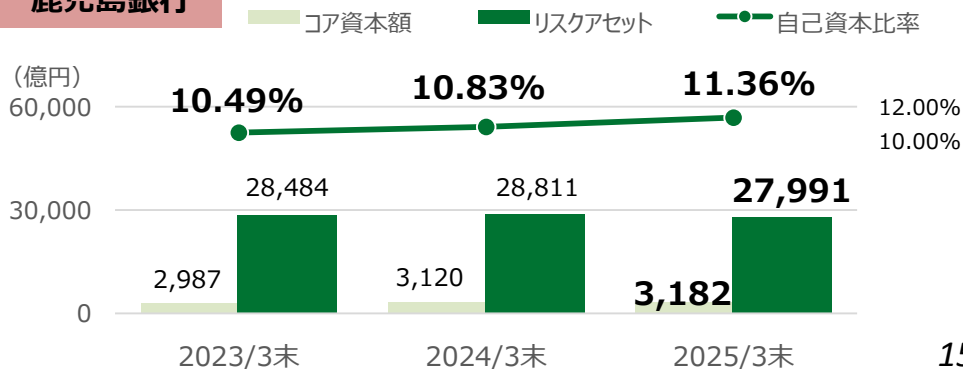
自己資本比率の推移（KFG連結）



肥後銀行



鹿児島銀行



2026年3月期の連結当期純利益は、335億円と過去最高益を見込む

2026年3月期業績予想（K F G連結）

（億円）

K F G連結	2025/3 (実績)	2026/3 (業績予想)	増減
経常利益	429	480	+ 50
当期純利益	303	335	+ 31

2026年3月期業績予想（2行合算）

（億円）

2行合算	2025/3 (実績)	2026/3 (業績予想)			増減
		2行合算	肥後	鹿児島	
経常利益	416	475	240	235	+ 59
当期純利益	298	335	170	165	+ 37
与信費用	21	35	15	20	+ 14



Kyushu FG

資本コストや株価を意識した 経営の実現に向けた取り組み

株式会社 九州フィナンシャルグループ

Kyushu Financial Group, Inc.

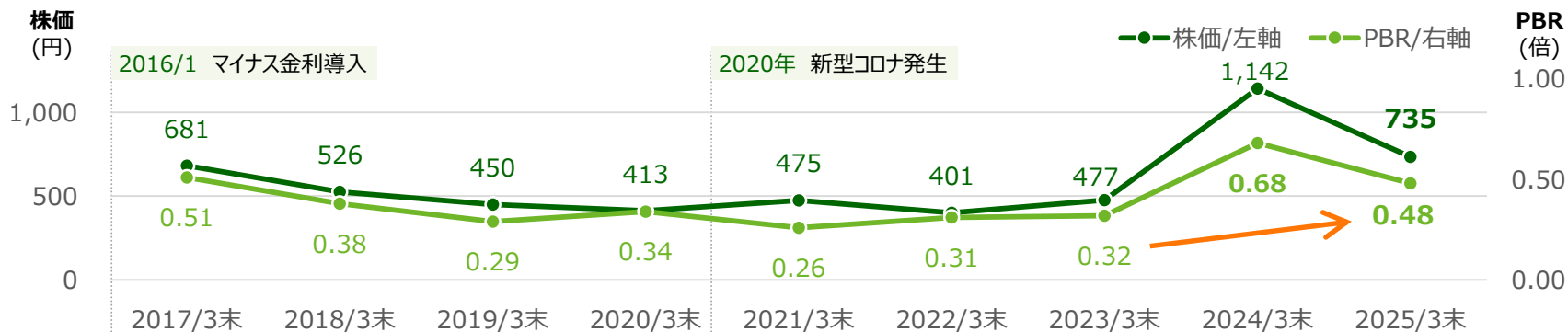


1. 現状分析（当社株価・PBR・ROEの推移）

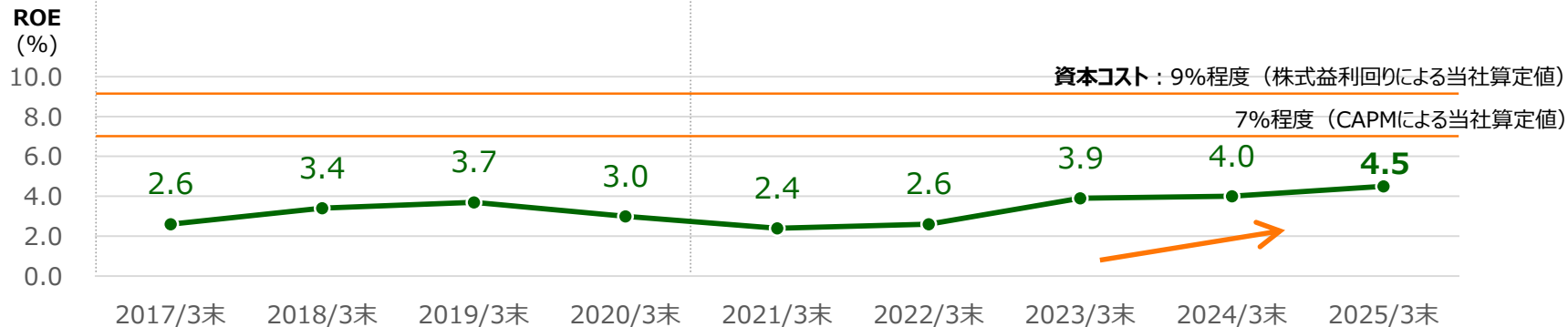
九州フィナンシャルグループ

PBR・ROEともに中期的に上昇傾向、資本コストや株価を意識した着実な経営に取り組む

株価とPBRの推移



ROEの推移



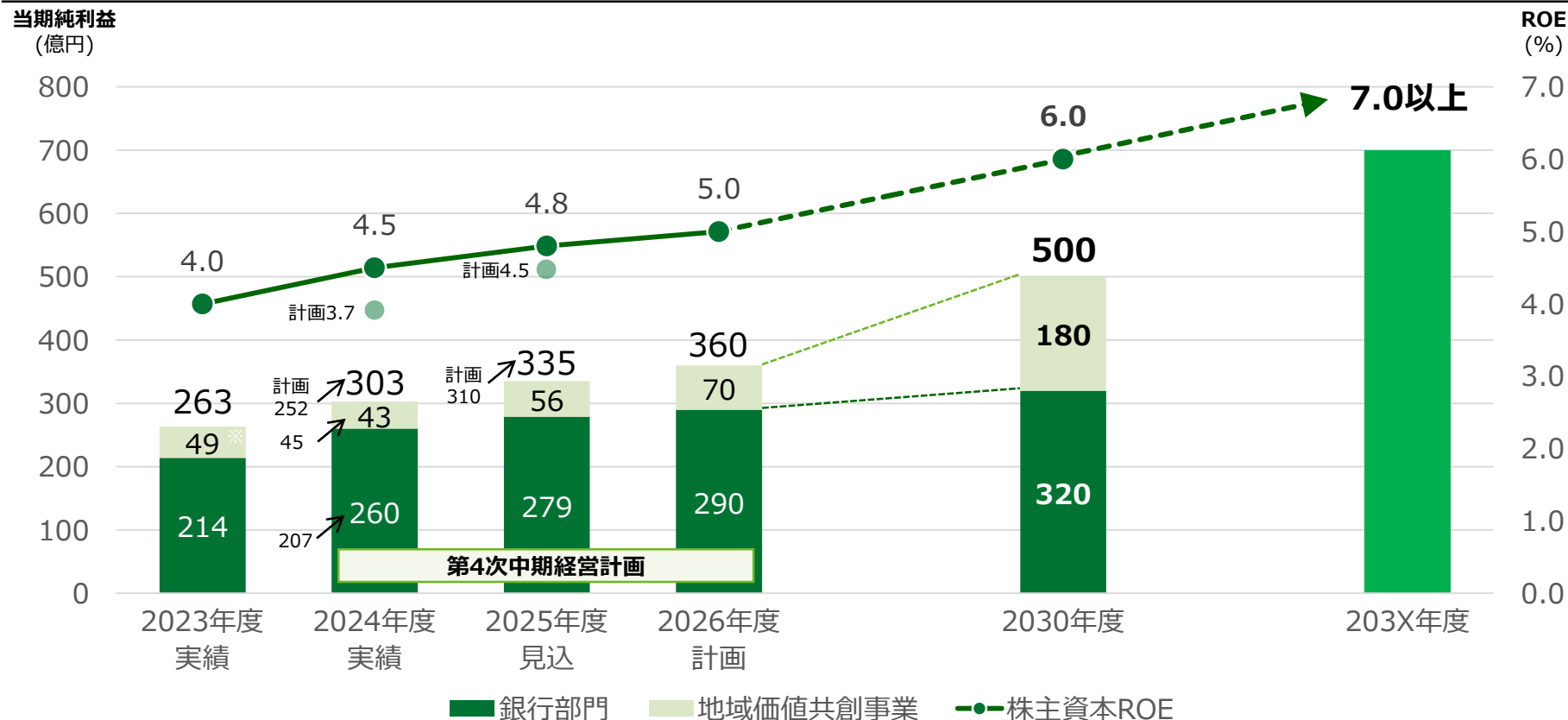
当期純利益

193 222 182 150 166 246 263 303

当期純利益
(億円)

2. 当社グループが目指す姿（利益・ROE向上）

継続的にリスク・リターンの改善を図り、中長期的に資本コストに見合うROE7%以上を目指す



※銀行の預り・法人ソリューション役務を、地域価値共創事業に算入

PBR改善に向けて、ROE・PER向上に継続的に取り組む

						2024年度		評価	2025年度	2026年度
						計画	実績		計画	計画
PBR改善	ROE向上	RORA改善	収益力強化	コア事業の強化	法人貸出平残	40,000億円	40,019億円	😊	42,000億円	44,000億円
					個人（住宅）ローン平残	26,800億円	26,558億円	😬	27,900億円	28,900億円
				役務取引の強化	役務利益比率	14.3%	16.2%	😊	14.1%	14.0%
			コストコントロール	経費コントロール	OHR	70.2%	74.9%	😬	65.6%	61.0%
				与信費用コントロール	与信費用比率	0.02%	0.02%	😊	0.04%程度	
				リスクアセットコントロール	アセットアロケーション	10.95%	11.67%	😬	10.75%	10.50%
		財務レバレッジコントロール	資本の有効活用 株主還元の実	リスクアセット削減	自己資本比率のコントロール	2%台前半 * (2027/3時点)	2.6%	😊	—	2%台前半*
				業績連動型の配当	予想DPS (1株当り配当金)	18円	21円	😊	21円	25円
	PER向上	資本コスト抑制	事業リスク低減	業績ボラティリティの改善	業績予想・実績乖離	±30%以内	±30%以内	😊	±30%以内	
				ESG評価の向上	FTSE ESGスコア (ガバナンス)	銀行セクター 世界平均以上	平均比▲0.3	😬	銀行セクター 世界平均以上	
		期待成長率向上	地域経済の活性化	地域価値共創事業の強化	地域価値共創事業収益額	45億円	43億円	😬	56億円	70億円



計画を上回って着地



計画を下回って着地

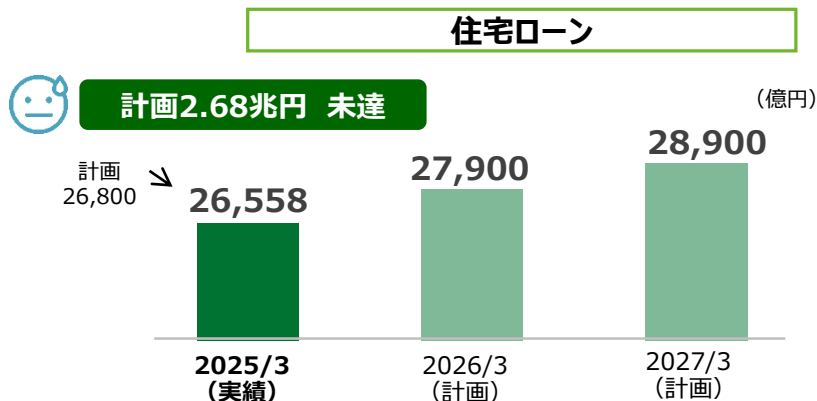
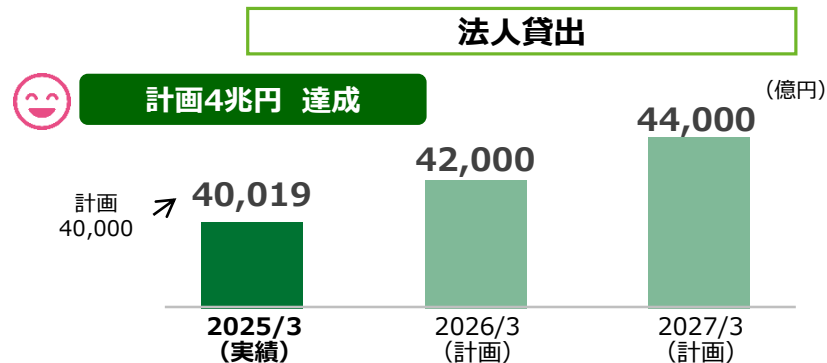
*2026年度の取得簿価の純資産に占める割合

4. ROE向上施策の取組み状況① ～収益力強化～

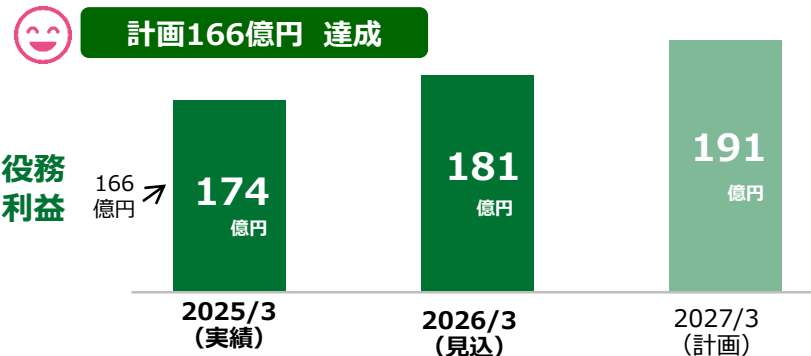
九州フィナンシャルグループ

法人貸出は計画通り着実に増加、役務利益額も計画を上回り着実に成長

コア事業の強化～法人貸出・住宅ローン（平残）

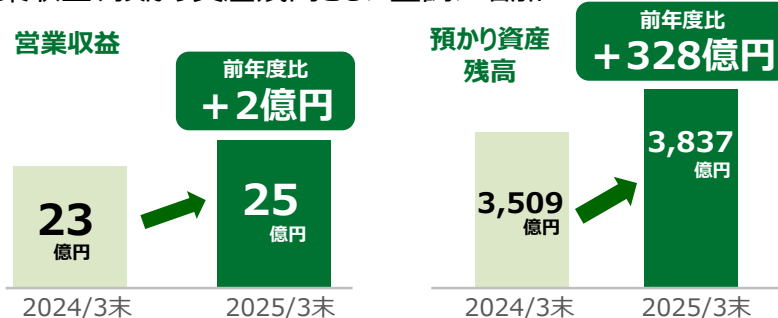


役務取引の強化



(参考) 九州FG証券の業績推移

営業収益、預かり資産残高ともに堅調に増加



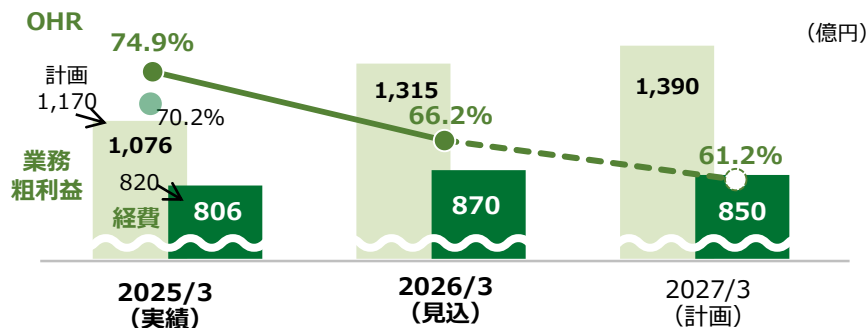
4. ROE向上施策の取組み状況② ～コストコントロール～

九州フィナンシャルグループ

経費は依然高水準も、与信費用は計画水準に抑制

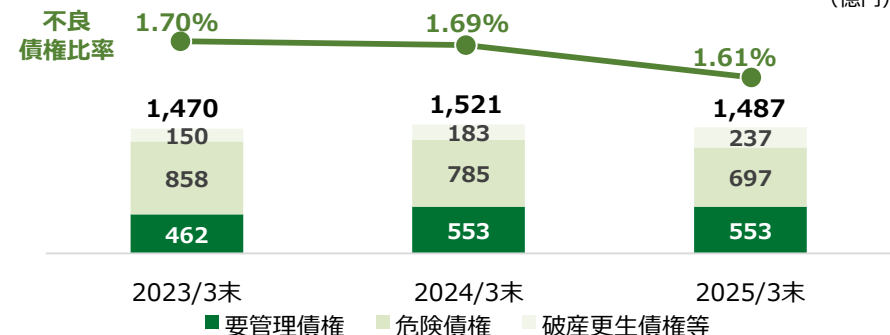


経費コントロール ～OHR～



金融再生法開示債権の状況

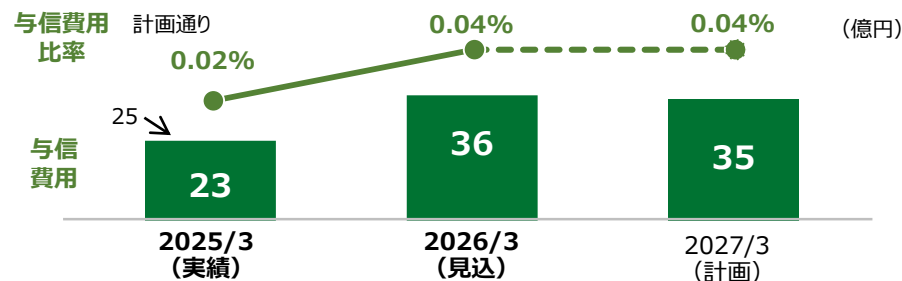
不良債権比率は減少傾向にあり、低水準を維持



与信費用コントロール ～与信費用比率※～

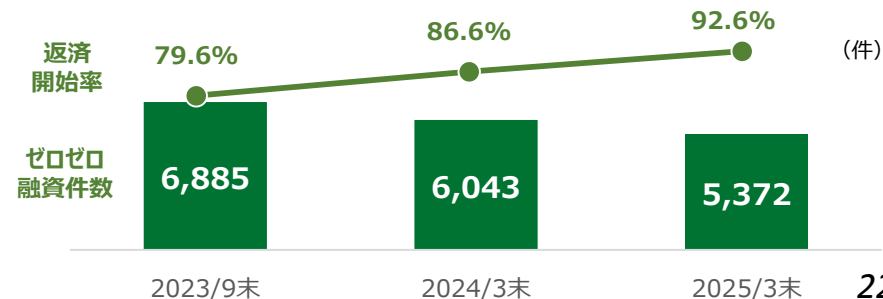
与信費用は着実に減少しており、計画水準で抑制

※与信費用÷貸出金平残



ゼロゼロ融資の返済状況

9割以上が返済を開始しており、融資件数は減少傾向

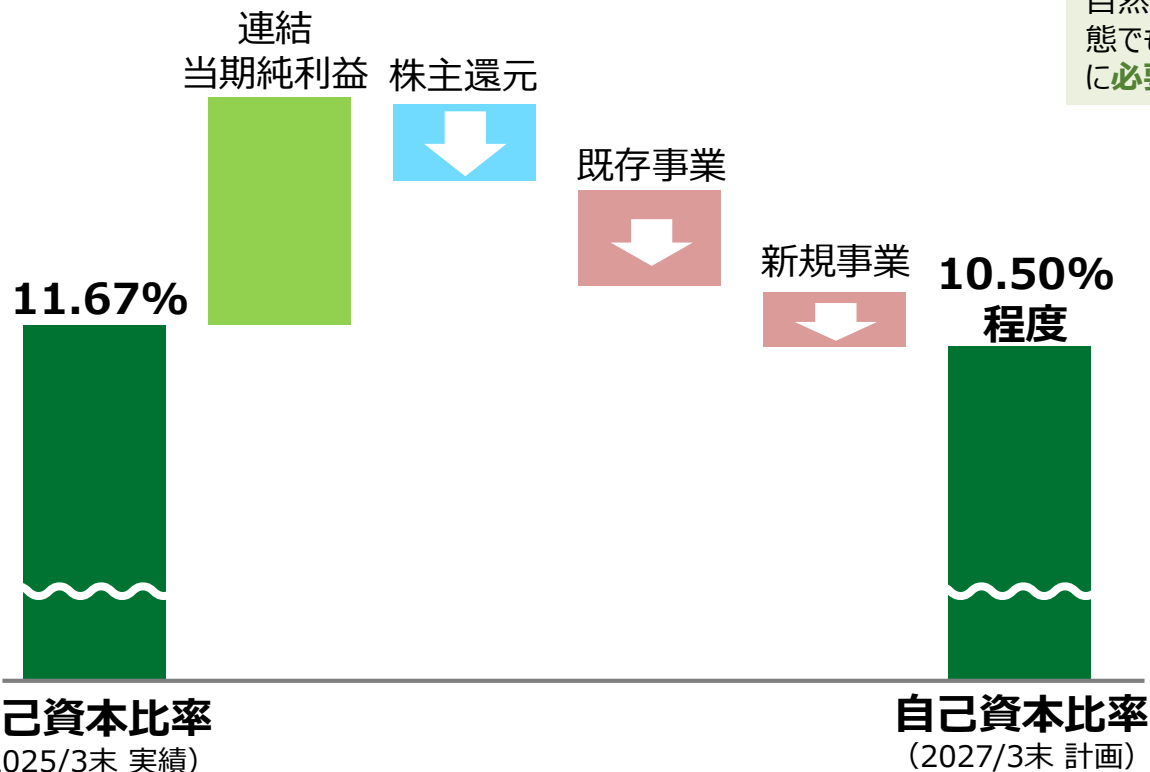


4. ROE向上施策の取組み状況③ ～リスクアセットコントロール～

九州フィナンシャルグループ

今後のリスクアセットの積上げにより、目標レンジ内への制御を目指す

自己資本比率のコントロール



自己資本比率目標レンジ

自然災害や新型コロナウイルス感染症など、予期せぬ事態でも地域社会へ安定した金融サービスを提供するために必要な自己資本比率を10%～11%と設定

資本運営の目標

追加の株主還元
収益力強化に向けた
資本活用

自己資本比率
目標レンジ

11.0%

10.0%

資本の蓄積

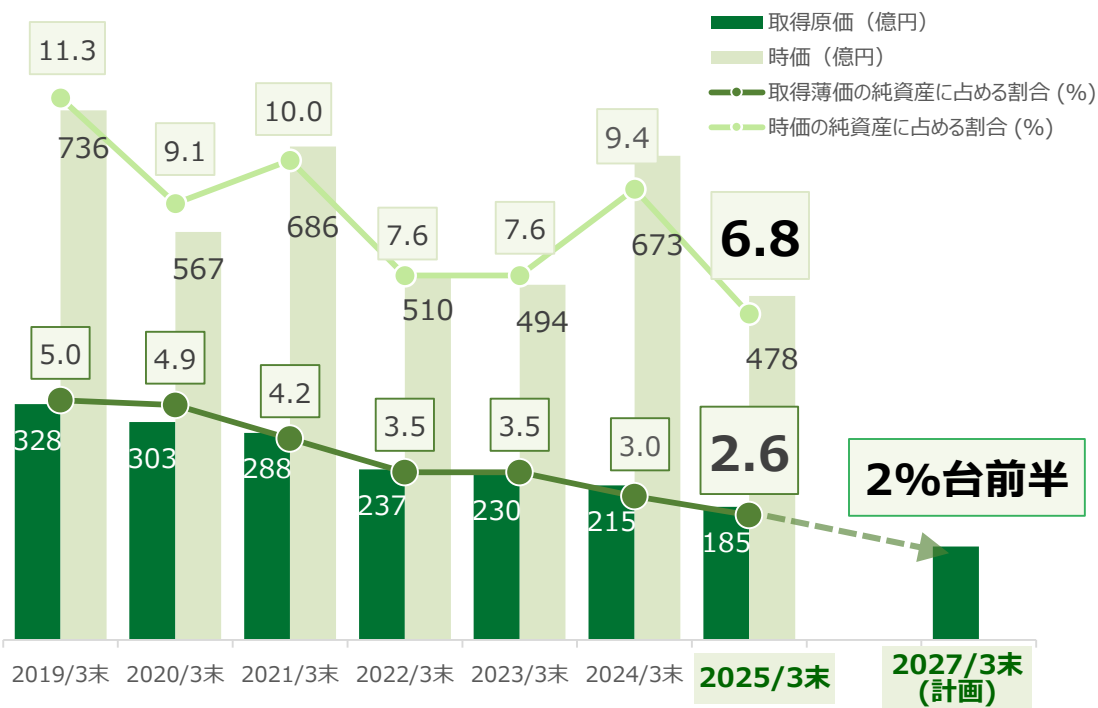
4. ROE向上施策の取組み状況④ ～資本の効率活用～

簿価・時価ベースともに縮減傾向、簿価ベースで2%台前半までの縮減を目指す



政策保有株式の縮減

国内上場株式の簿価（取得原価ベース）及び時価の推移



政策保有株式に関する基準

定性評価

- ① 情報・ノウハウ共有及び業務連携・提携等が可能
- ② 地域経済活性化に資する
- ③ 企業価値・資産価値を著しく毀損しない

定量評価

銘柄毎の収益率が指標目標とする株主資本ROEを下回らないこと
(肥後銀行:4.1%、鹿児島銀行:4.16%)

4. ROE向上施策の取組み状況⑤ ～株主還元の充実～

九州フィナンシャルグループ

2024年度は、増益により当初計画から3円増配の年間配当21円

2025年度は、増益および記念配当により5円増配の年間配当26円を予定



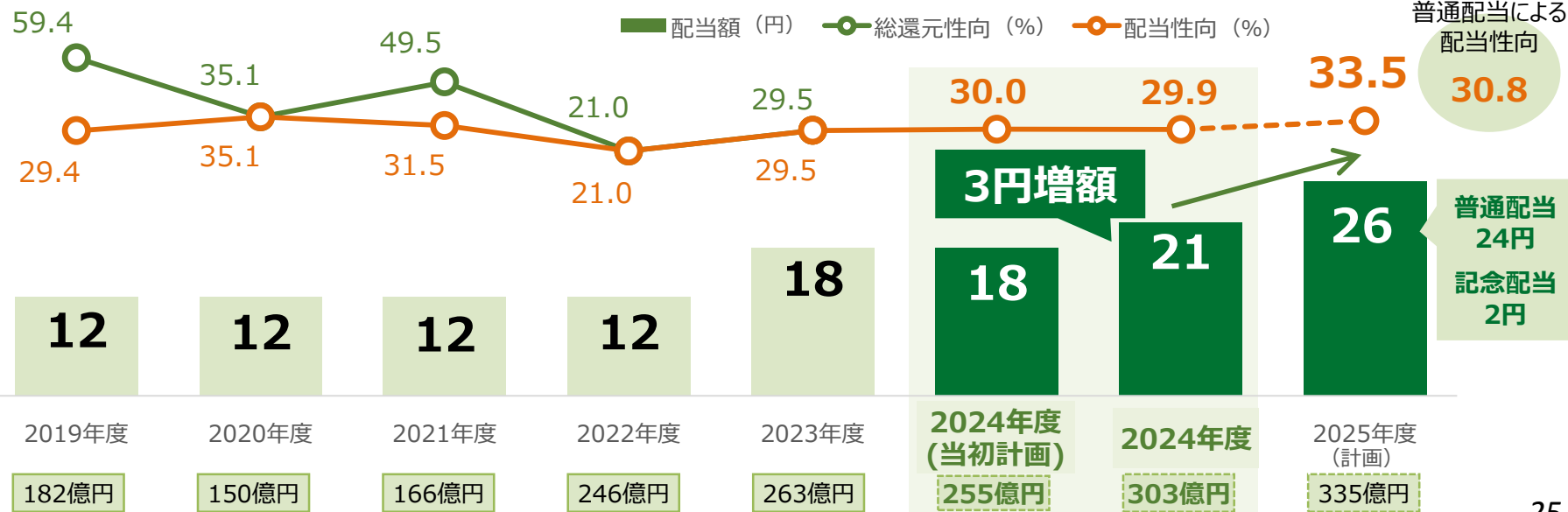
予想DPS（1株当たり配当金）

1株当たり配当金

【2024年度】 中間配当9円 期末配当12円

【2025年度】 中間配当13円(予定)、 期末配当13円(予定)

■ 配当額（円） ● 総還元性向（%） ○ 配当性向（%）





Kyushu FG

第4次グループ中期経営計画「躍進」 の進捗状況

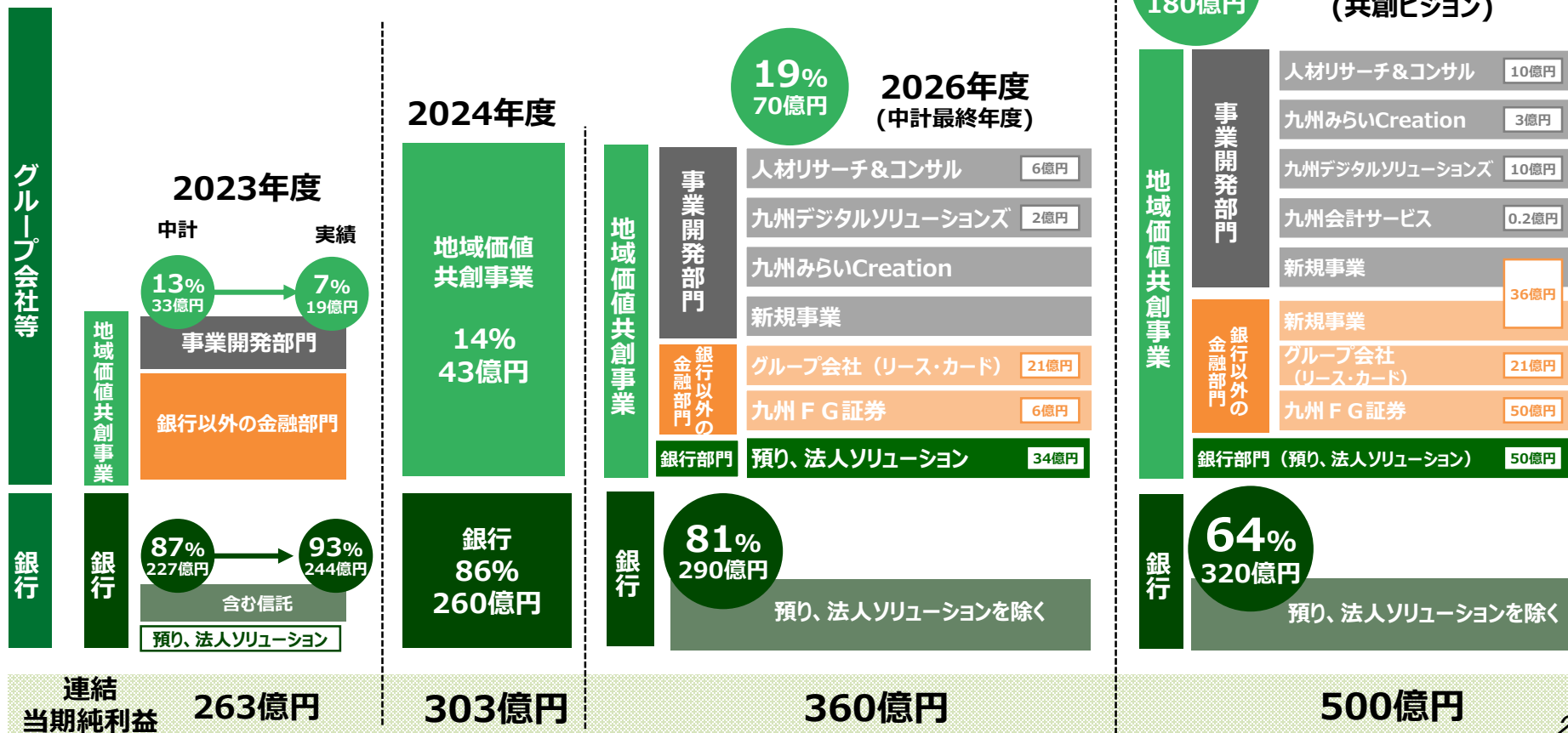
株式会社九州フィナンシャルグループ

Kyushu Financial Group, Inc.



1. 2030年に目指す「共創ビジョン」

九州フィナンシャルグループ



第4次グループ中期経営計画「躍進」(2024年4月～2027年3月)

基本方針

地域価値共創グループ実現へ向けての躍進

基本戦略

1. 未来を創る地域価値提供の取り組み加速

戦略の柱

- ① 新たな事業への挑戦・事業領域の拡充
- ② 地域・お客さま起点のソリューション提供

2. 地域経済の成長に向けたコア事業の強化

戦略の柱

- ① 地域産業の成長支援強化
- ② ライフプランコンサルティングの深化

3. 持続的成長に向けた強固な経営基盤の確立

戦略の柱

- ① 人的資本経営の実践による社員価値向上
- ② GX・DXにかかる先進的な取り組み
- ③ KFGビジネスモデルの変革

3. 【基本戦略1】未来を創る地域価値提供の取り組み加速

九州フィナンシャルグループ

戦略の柱①

新たな事業への挑戦・事業領域の拡充

戦略の柱②

地域・お客さま起点のソリューション提供

地域価値共創事業収益額

実績

2024年度

43億円

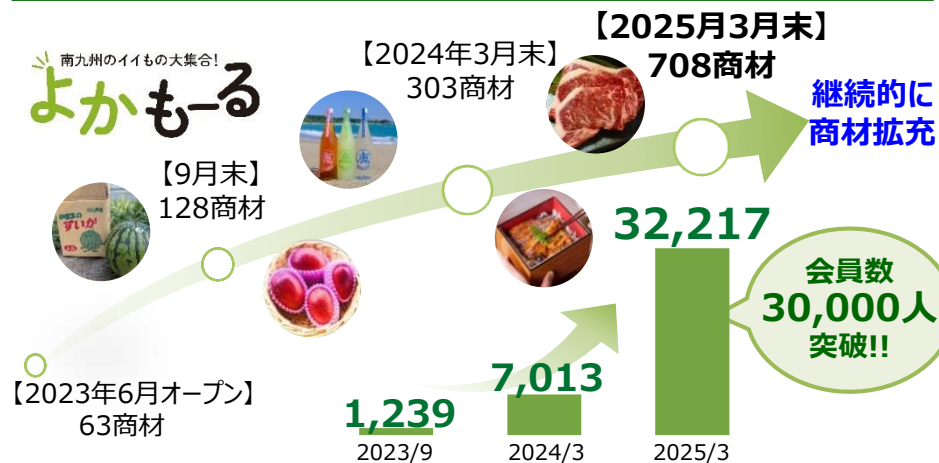
中計
計画

2026年度

70億円

地域商社「九州みらいCreation」の取り組み

ECモール「よかもーる」



事業承継・M&Aへの取り組み

南九州サーチファンド1号

肥後銀行

鹿児島銀行

2025.4 他行・他企業と共同設立・出資

共同
設立

◆宮崎銀行

◆日本M&AセンターHD

ファンド総額

10億円

創業・開業支援への取り組み

スタートアップ ハブ くまもと

肥後銀行

	計画※	実績※	計画比
新規開業	360件	644件	+284
雇用創出	1,080人	1,645人	+565

新規開業
融資額(※)

約60億円

※2022/4～2025/3
3か年累計

4. 【基本戦略2】地域経済の成長に向けたコア事業の強化

九州フィナンシャルグループ

戦略の柱①

地域産業の成長支援強化

電子デバイス関連産業への取り組み

収益機会の拡大

融資状況

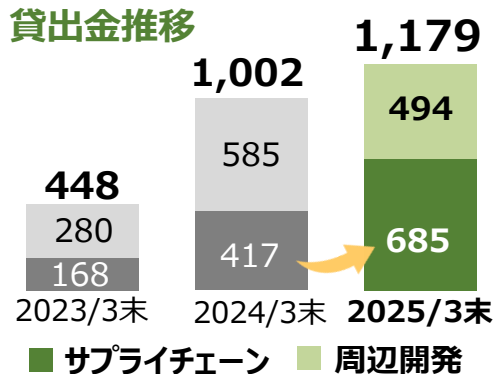
3か年実績
(2022/4~2025/3)

2,609億円

今後の見込 (2025/3末)

1,030億円

貸出金推移



サプライチェーン参入支援件数



Q-BASS(キューベース)を通じた他行連携

2025.2 半導体商社へのシンジケートローン組成

組成金額 **66億円**

くまもと半導体グリーンイノベーション協議会

2025.2 約40の企業・団体で発足

目的

半導体技術
の進化

持続可能な産業発展、安心・安全で豊かな社会実現への貢献

会員構成

地元企業

市町村

進出企業

県内大学

▶ 産学官金による連携



発足式の様子

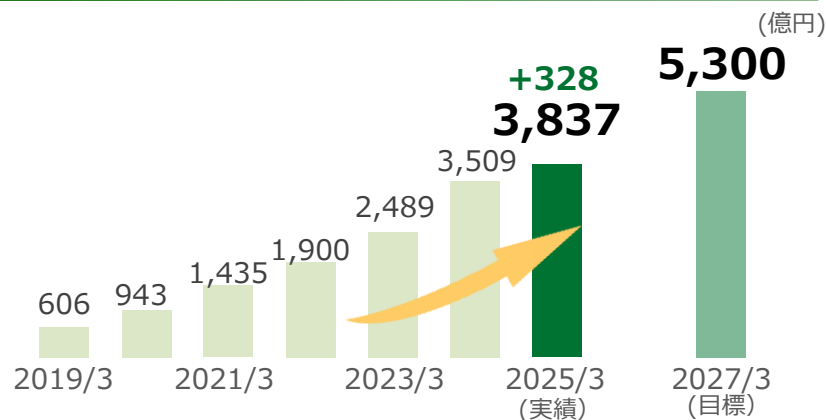
4. 【基本戦略2】地域経済の成長に向けたコア事業の強化

九州フィナンシャルグループ

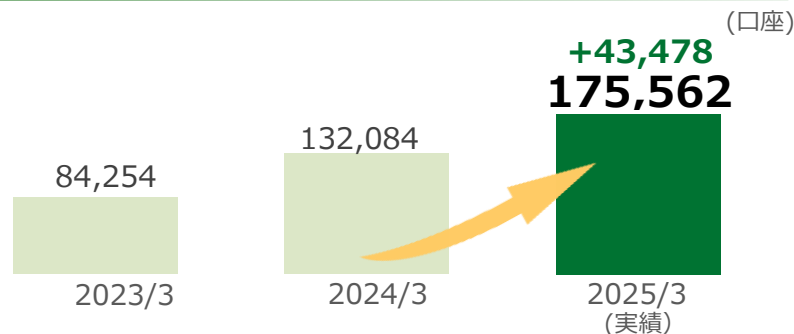
戦略の柱②

ライフプランコンサルティングの深化

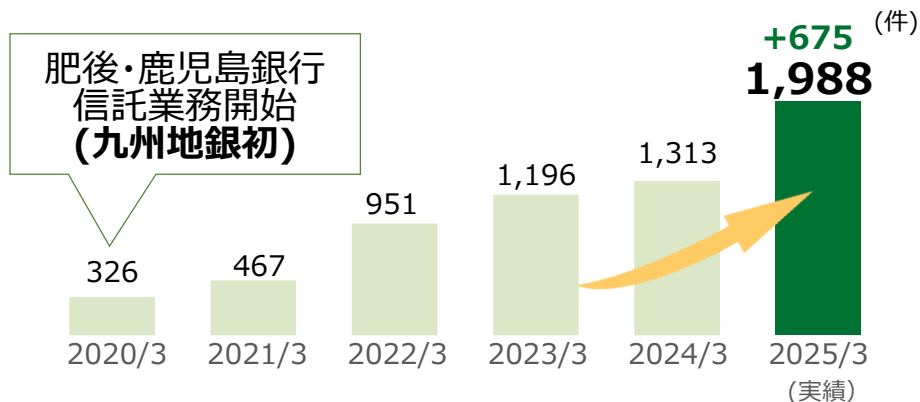
預り資産残高推移（九州FG証券）



NISA口座数推移



信託業務契約推移



お客様のセグメントに応じた営業体制構築

対面と非対面のハイブリッド型営業

対面によるコンサル営業

- 単独外交・主体的営業
- 証券独自商品・サービス
- 信託等の情報トスアップによる銀証信連携強化

非対面チャネル強化

- ダイレクト・マーケティング
- ※必要に応じ、対面チャネルも活用しネット証券と差別化

5. 【基本戦略3】持続的成長に向けた強固な経営基盤の確立

九州フィナンシャルグループ

戦略の柱① 人的資本経営の実践による社員価値向上

人材ポートフォリオ構築への取り組み

(人)

	2024/3	2025/3	2027/3	2031/3
	実績		計画	
法人コンサル	159	173	219	280
個人コンサル	18	19	39	54
IT・DX	82	155	247	560
マーケット	51	51	58	64
コーポレート	41	47	58	70
合計	351	445 (+94)	621 (+270)	1,028 (+677)

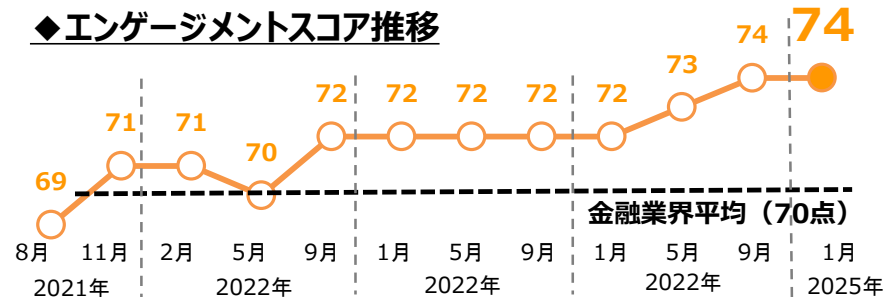
人材採用強化

(人)

	2025/3		2026/3
	計画	実績	計画比
新卒採用	254	284	+30
キャリア採用	77	91	+14
合計	331	375	+44

従業員エンゲージメント向上

◆エンゲージメントスコア推移



※エンゲージメントサーベイ「Wevox」利用 業界平均は、アトラエ社調べ

5. 【基本戦略3】持続的成長に向けた強固な経営基盤の確立

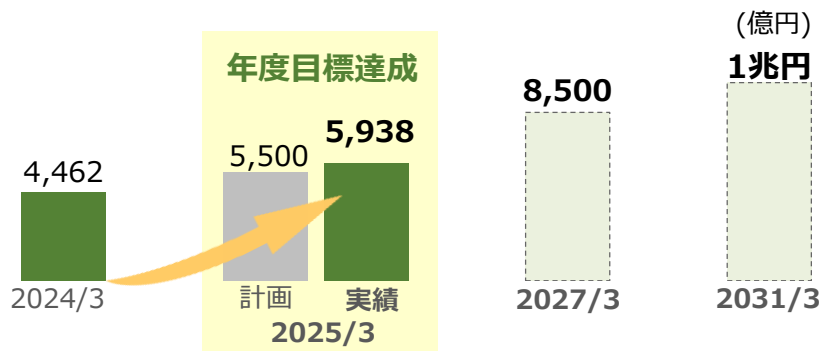
九州フィナンシャルグループ

戦略の柱②

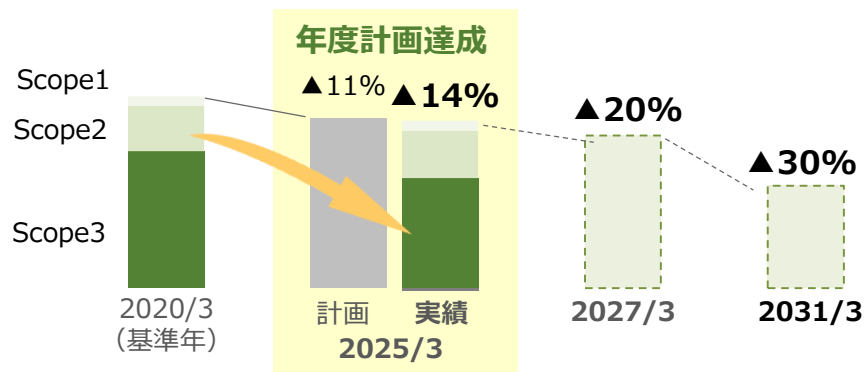
GX・DXにかかる先進的な取り組み

GXへの取り組み

ESG投融資累計実行額推移



CO2排出量削減推移（2020/3比）



DXへの取り組み

地域DX推進

Hugmeg (ハグメグ)

KFG

- ◆ 地域デジタルプラットフォーム活性化アプリ
- ◆ 金融サービス、暮らしに役立つ情報発信



KDS学校会計クラウド

九州デジタルソリューションズ

- ◆ 学校徴収金管理システム
- ◆ 熊本県立学校に導入(68校)

くまモン!Pay

肥後銀行

- ◆ 2025年6月リリース予定
- ◆ キャッシュレス決済アプリ
- ◆ スマホタッチ決済可能



「iD」ロゴ及び「iD プリペイド」は株式会社NTTドコモの登録商標です。
©2010熊本県くまモン#K36295

Payどん

鹿児島銀行

- ◆ キャッシュレス決済アプリ
- ◆ QR決済、口座から直接支払可能



グループとして統合する分野の明確化

ガバナンス (※監査部門は統合済み)

経営に関する制度・機構

- ◆ 指名・報酬諮問委員会の運営、役員報酬制度の設計

コンプライアンス

- ◆ 機能集約、運営体制見直し

DX

基幹系システム

- ◆ 基幹系システムの統合による業務の標準化

業務システム・融資システム・監査システム

- ◆ 各社が利用するシステムの一本化

金融制度対応

- ◆ バーゼルⅢ、FD等

主計・広報

- ◆ 機能集約、運営体制見直し

人的資本

研修

- ◆ 階層別や女性役席など各社共通の研修を共同で開催

研修

- ◆ 採用ポータルサイトを一本化

7. 創立10周年について

10年間の主な取り組み

2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
●九州フィナンシャルグループ設立		●九州FG証券設立			●九州会計サービス子会社化 ●九州FG証券IPO支援開始		●九州デジタルソリューションズ子会社化	●九州みらいCreation設立	
									●「Hugmeg」リリース

中期経営計画	第1次「協働」	第2次「融合」	「共創」	
	第3次「改革」	第4次「躍進」		
	主な取り組み	主な取り組み	主な取り組み	
	多様なニーズに応える総合金融力 ・地域ファンド共同組成（肥後・鹿児島） ステークホルダー信頼されるブランド力 ・地域観光振興協定締結（熊本・鹿児島） ➡ 観光プロモーションの強化 グループ全体最適を実現する組織運営力 ・監査・主計・広報業務統合 ・グループ間人材交流による組織力強化	「地域活力共創」グループへの進化 ・クラウドファンディング事業開始 人材力の強化 ・幹部養成、専門人材育成施策の実施 ・採用活動における企画統一 ガバナンスの高度化 ・組織改正（広報・IR、人事・総務新設）	地域産業振興機能の拡充 ・ECモール「よかもーる」開設 人づくりとエンゲージメント向上 ・社内公募、グループ転籍制度新設 ・エンゲージメントサーベイ導入 理念体系の確立 ・パーパス・ビジョン制定	バリュー制定 ・バリュー制定

創立10周年記念事業

記念事業	対象者	概要	実施スケジュール (予定)
① 記念配当の実施	株主	・年間 2 円 (中間期 1 円、期末 1 円)	2025年度 中間・期末配当
② 記念株主優待の実施	株主	・「よかもーるポイント」 5,000 円分贈呈 ※ECモール「よかもーる」で利用可能	2026/5下旬
③ ECモール「よかもーる」 クーポンプレゼント	よかもーる会員	・「よかもーる」5,000円 OFF クーポン贈呈	2026/1
④ グループ従業員への インセンティブ支給	当社グループ社員	・普通株式の付与	2025/11
	当社グループの パートタイム従業員	・「よかもーるポイント」支給	2026/1



Kyushu FG

計数資料

株式会社九州フィナンシャルグループ

Kyushu Financial Group, Inc.



1. 決算概況

【肥後銀行】

- ・業務粗利益は、資金利益の増加等により、前年比+34億円の491億円となった。
- ・経常利益は、業務粗利益の増加等により、前年比+28億円の221億円となった。
- ・当期純利益は、前年比+20億円の158億円となった。

肥後銀行 損益状況

(億円)

	2023年度	2024年度	増減
経常収益	1,003	1,184	181
業務粗利益	456	491	34
うち資金利益	483	557	74
うち役務取引等利益	79	71	▲ 7
うちその他業務利益	▲ 106	▲ 138	▲ 32
(うち国債等債券損益)	▲ 74	▲ 80	▲ 5
経費 (▲)	368	388	20
コア業務純益	163	182	18
一般貸倒引当金繰入額 (▲)	—	—	—
業務純益	88	102	13
臨時損益	104	119	15
不良債権処理額(▲)	▲ 12	▲ 5	7
株式等関係損益	87	106	19
その他臨時損益	5	7	2
経常利益	193	221	28
特別損益	0	▲ 0	▲ 0
税引前当期純利益	193	221	27
当期純利益	138	158	20
(与信費用)	▲ 12	▲ 5	7

【鹿児島銀行】

- ・業務粗利益は、資金利益等は増加したものの、その他業務利益の減少等により、前年比▲24億円の485億円となった。
- ・経常利益は与信費用の改善等により、前年比+6億円の194億円となった。
- ・当期純利益は、前年比+6億円の140億円となった。

鹿児島銀行 損益状況

(億円)

	2023年度	2024年度	増減
経常収益	828	895	67
業務粗利益	510	485	▲ 24
うち資金利益	468	486	18
うち役務取引等利益	61	76	14
うちその他業務利益	▲ 19	▲ 76	▲ 56
(うち国債等債券損益)	3	▲ 51	▲ 55
経費 (▲)	339	341	2
コア業務純益	167	195	28
一般貸倒引当金繰入額 (▲)	60	9	▲ 50
業務純益	110	134	24
臨時損益	77	60	▲ 17
不良債権処理額(▲)	3	16	13
株式等関係損益	86	67	▲ 19
その他臨時損益	▲ 5	9	14
経常利益	188	194	6
特別損益	▲ 1	▲ 1	0
税引前当期純利益	186	193	6
当期純利益	133	140	6
(与信費用)	63	26	▲ 36

2. 資金利益

【肥後銀行】 557億円（前年比+74億円）

- ・ 資金調達コストは増加したものの、貸出金利息や有価証券利息配当金の増加等により、前年比+74億円となった。

【鹿児島銀行】 486億円（前年比+18億円）

- ・ 資金調達コストは増加したものの、貸出金利息の増加等により、前年比+18億円となった。

肥後銀行 資金利益の状況

(億円)

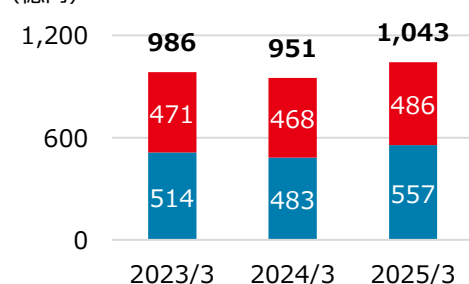
	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2023年度比 増減
資金利益	514	483	557	74
国内部門	460	437	501	64
うち貸出金利息	342	358	403	44
うち有価証券利息	121	77	119	41
うち資金調達コスト (▲)	9	18	46	27
国際部門	54	46	55	9
うち貸出金利息	27	46	41	▲ 5
うち有価証券利息	100	100	126	26
うち資金調達コスト (▲)	75	101	112	11

鹿児島銀行 資金利益の状況

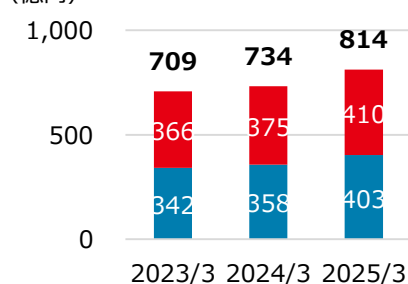
(億円)

	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2023年度比 増減
資金利益	471	468	486	18
国内部門	443	447	465	17
うち貸出金利息	366	375	410	35
うち有価証券利息	74	66	67	0
うち資金調達コスト (▲)	1	4	41	36
国際部門	27	20	21	0
うち貸出金利息	9	11	4	▲ 7
うち有価証券利息	63	51	54	2
うち資金調達コスト (▲)	45	42	37	▲ 5

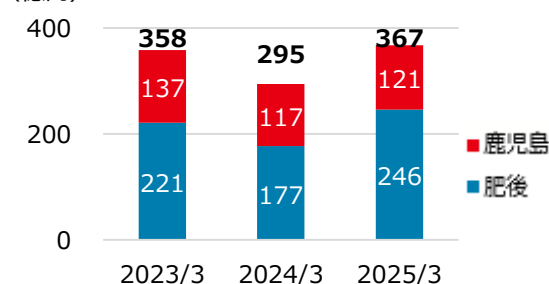
資金利益の推移



国内貸出金利息の推移



有価証券利息の推移



3. 役務取引等利益

【肥後銀行】

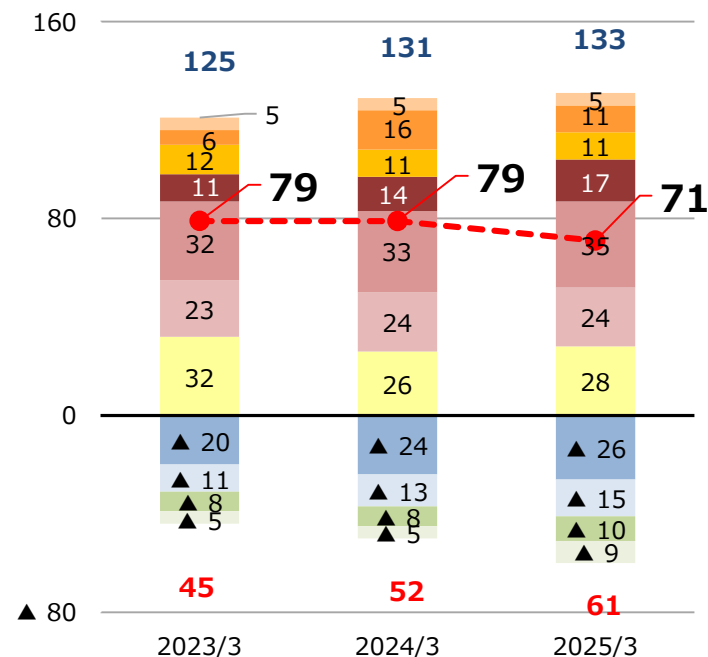
- 役務取引等利益は、ローン取扱手数料等が増加したが、法人ソリューション手数料の減少等により、前年比▲7億円の71億円となった。

【鹿児島銀行】

- 役務取引等利益は、ローン取扱手数料の増加等により、前年比+14億円の76億円となった。

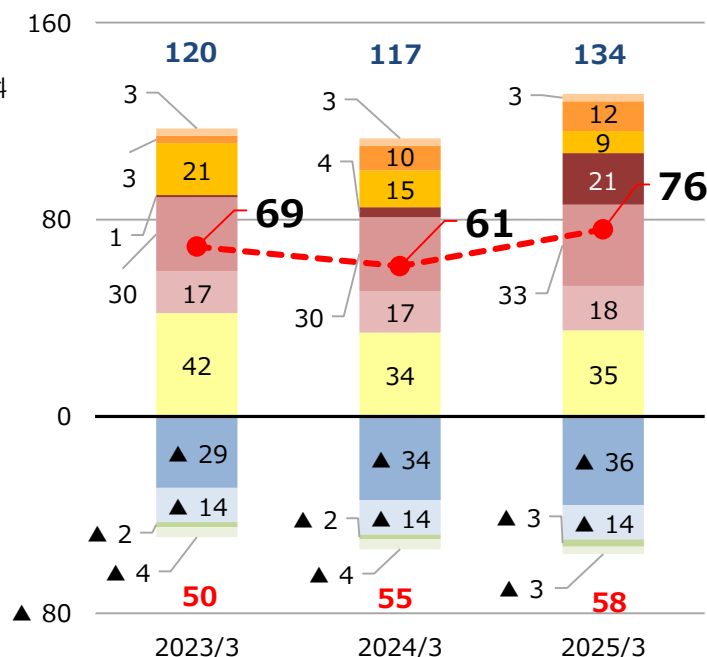
肥後銀行 役務取引等利益の状況

(億円)



鹿児島銀行 役務取引等利益の状況

(億円)

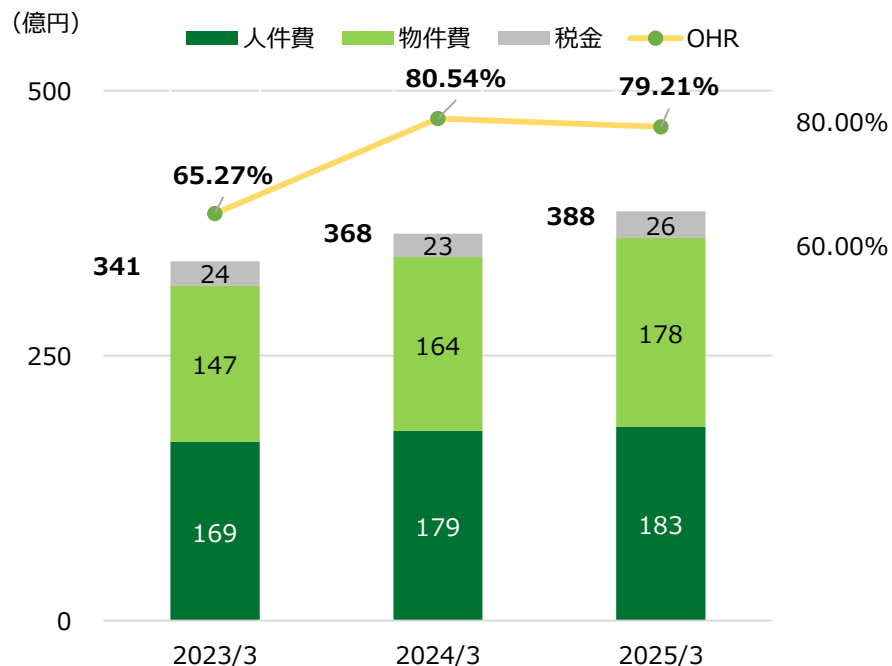


4. 経費

【肥後銀行】

- ・ 経費は、物件費、人件費の増加等により前年比+20億円の388億円となった。
- ・ O H R は、経費は増加したものの、業務粗利益の増加により前年比▲1.33%の79.21%となった。

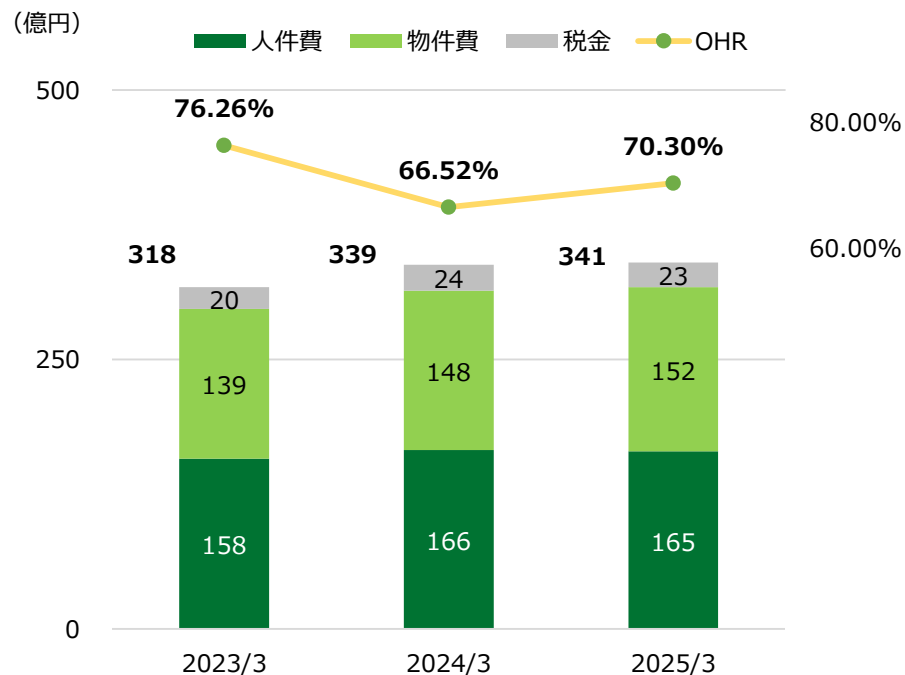
肥後銀行 経費の状況



【鹿児島銀行】

- ・ 経費は、物件費の増加等により前年比+2億円の341億円となった。
- ・ O H R は、国債等債券損益の減少による業務粗利益の減少により、前年比+3.78%の70.30%となった。

鹿児島銀行 経費の状況

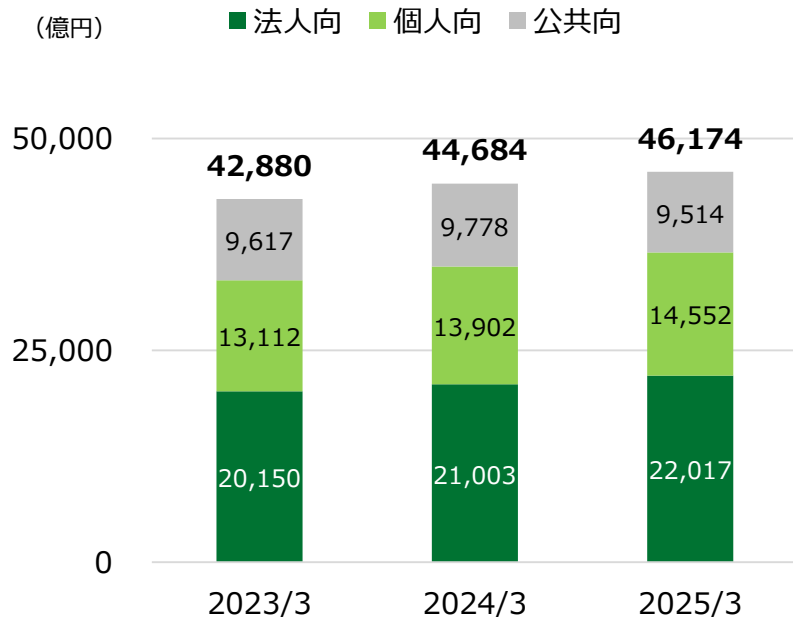


5. 貸出金（平残）

【肥後銀行】（平残）

- 法人向、個人向において、貸出金平残が増加したことから、前年度末比+1,490億円の4兆6,174億円となった。

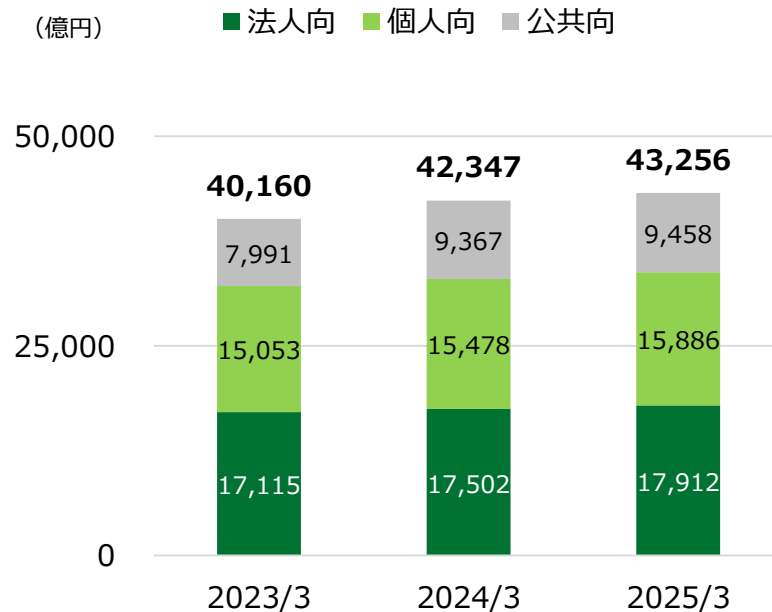
肥後銀行 平残



【鹿児島銀行】（平残）

- 各区分において、貸出金平残がいずれも増加したことから、前年度末比+908億円の4兆3,256億円となった。

鹿児島銀行 平残

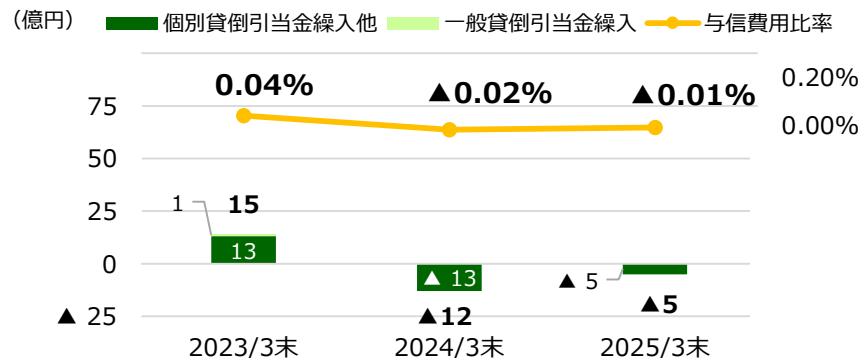


6. 与信費用と金融再生法開示債権

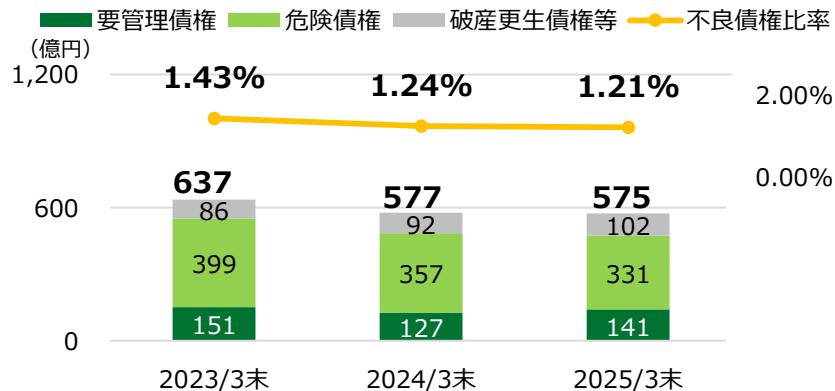
【肥後銀行】

- ・ 与信費用比率は、前年比+0.01%の0.01%となった。
- ・ 不良債権比率は、前年度末比▲0.03%の1.21%となった。

肥後銀行 与信費用の状況



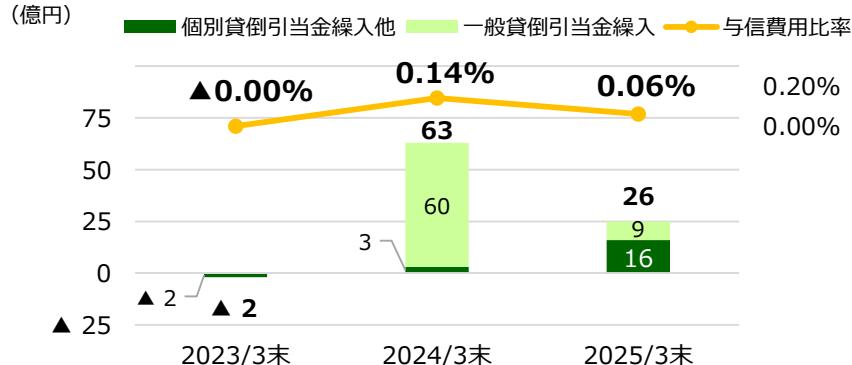
肥後銀行 金融再生法開示債権の状況



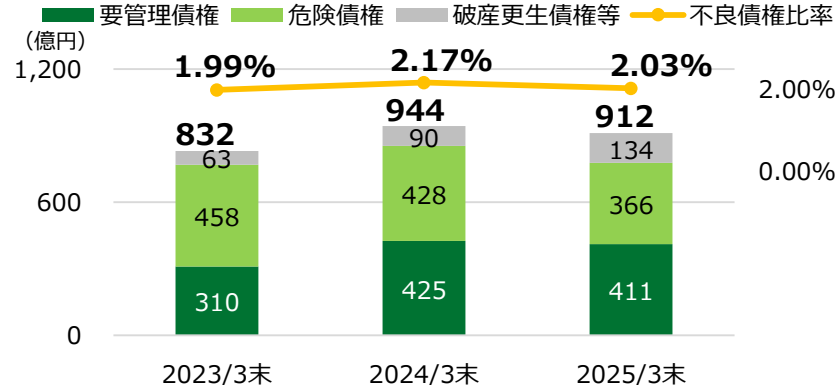
【鹿児島銀行】

- ・ 与信費用比率は、前年比▲0.08%の0.06%となった。
- ・ 不良債権比率は、前年度末比▲0.14%の2.03%となった。

鹿児島銀行 与信費用の状況



鹿児島銀行 金融再生法開示債権の状況



7. 有価証券（残高）

【肥後銀行】

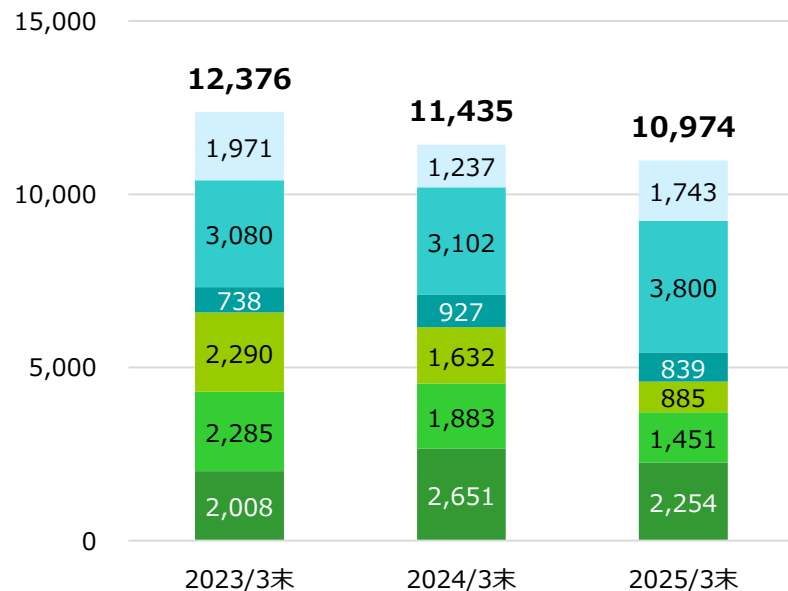
- 有価証券残高は、国債、地方債及び社債が減少したことから、前年度末比▲461億円の1兆974億円となった。

【鹿児島銀行】

- 有価証券残高は、国債及び外国証券等が減少したことから、前年度末比▲933億円の7,687億円となった。

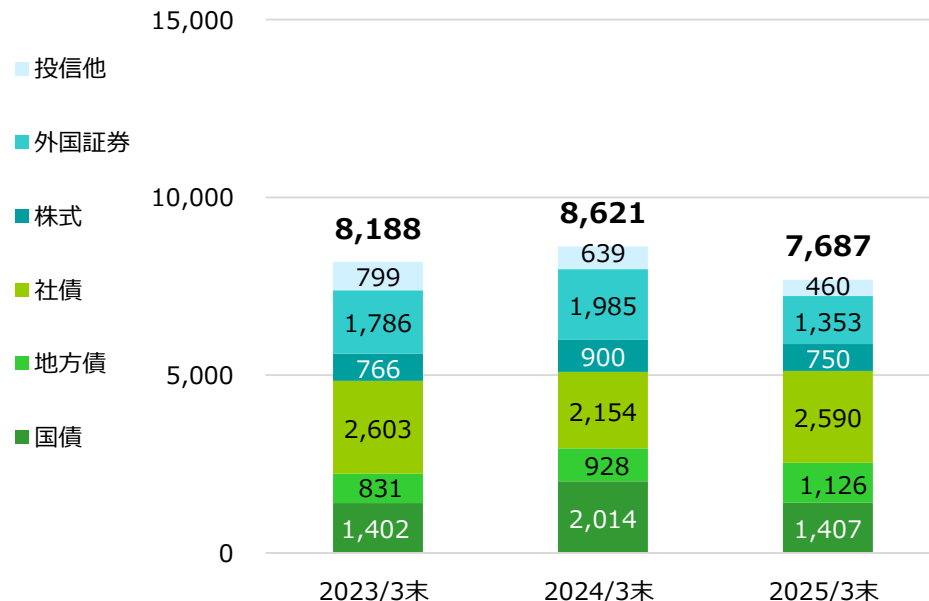
肥後銀行 有価証券残高の状況

(億円)



鹿児島銀行 有価証券残高の状況

(億円)



7. 有価証券（評価損益）

【肥後銀行】

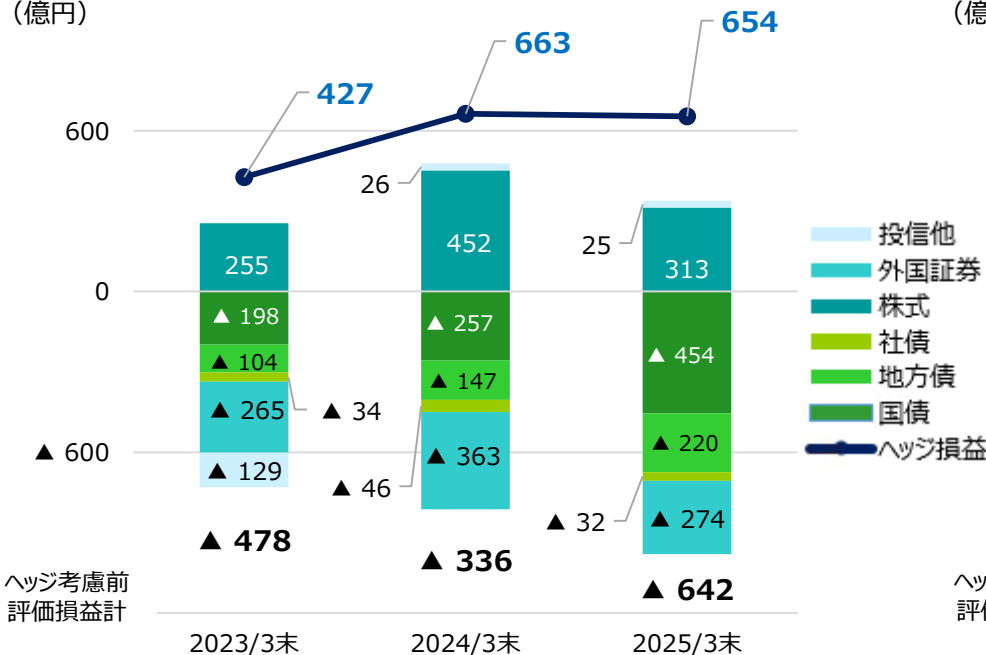
- ・ ヘッジ損益考慮後の有価証券評価損益は、11億円となった。

【鹿児島銀行】

- ・ ヘッジ損益考慮後の有価証券評価損益は、211億円となった。

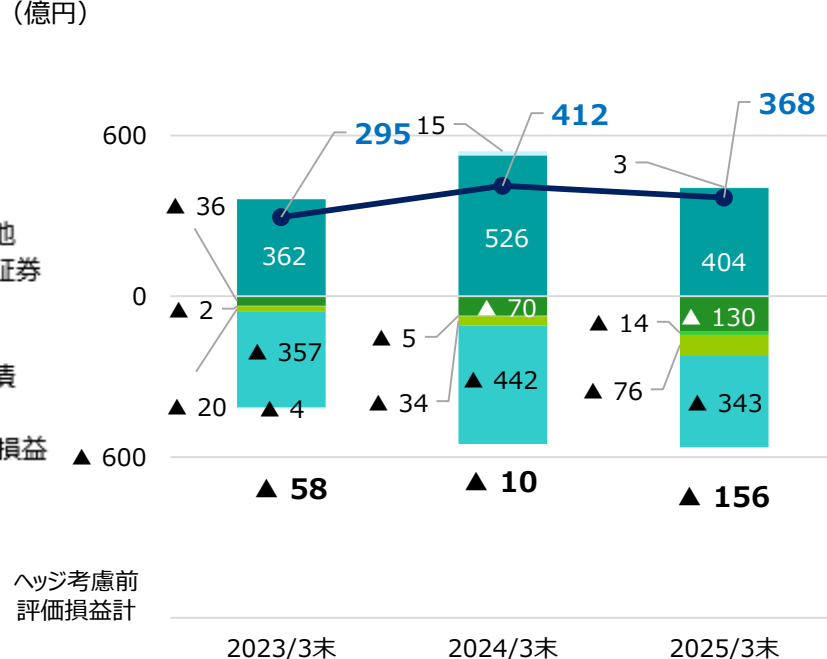
肥後銀行 有価証券評価損益の状況

(億円)



鹿児島銀行 有価証券評価損益の状況

(億円)



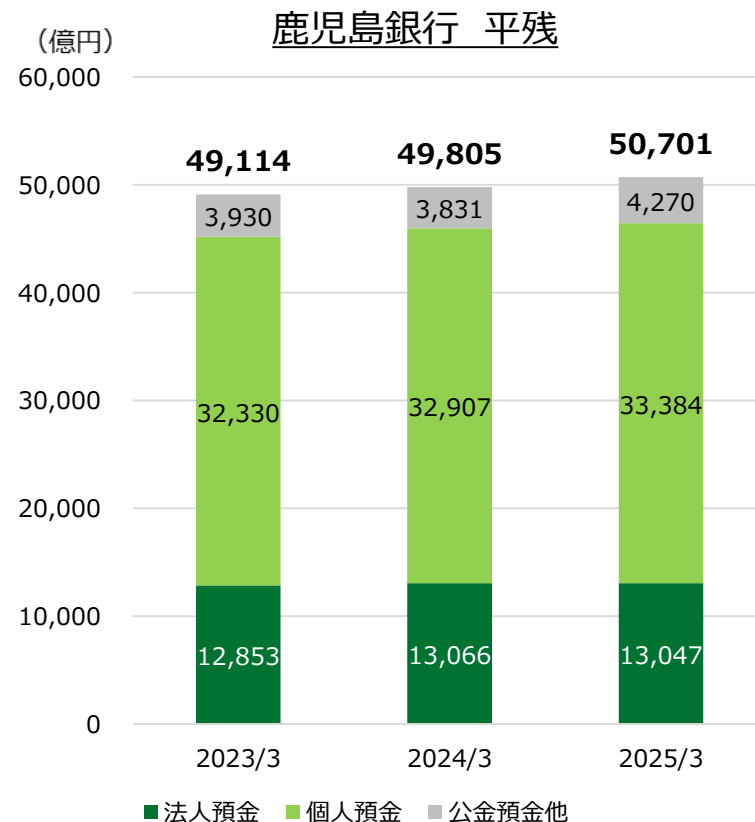
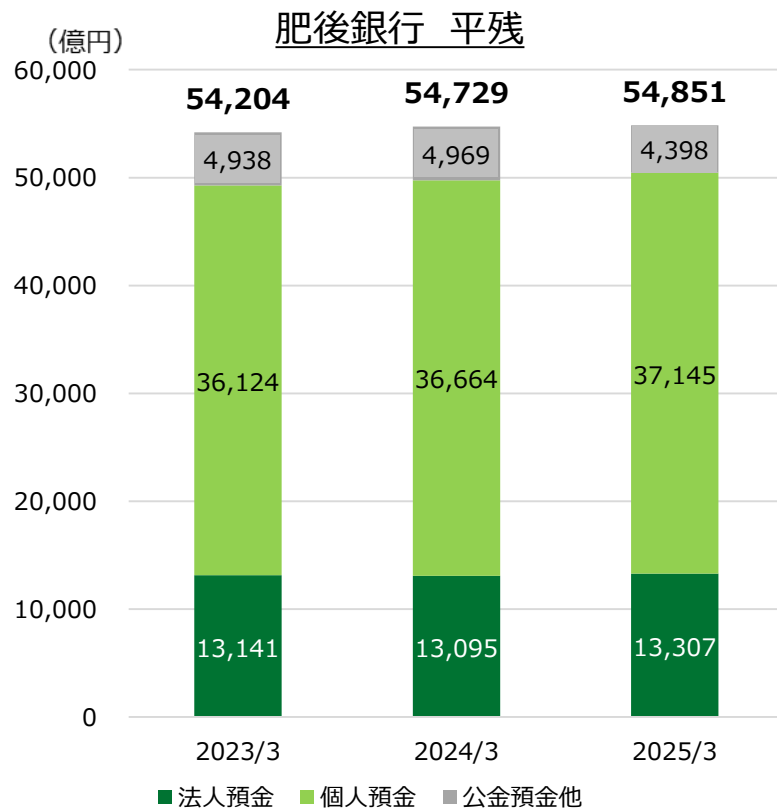
8. 総預金（含むNCD）（平残）

【肥後銀行】

- 法人預金及び個人預金の平残が増加したことから、前年度末比+121億円の5兆4,851億円となった。

【鹿児島銀行】

- 個人預金及び公共預金の平残が増加したことから、前年度末比+896億円の5兆0,701億円となった。

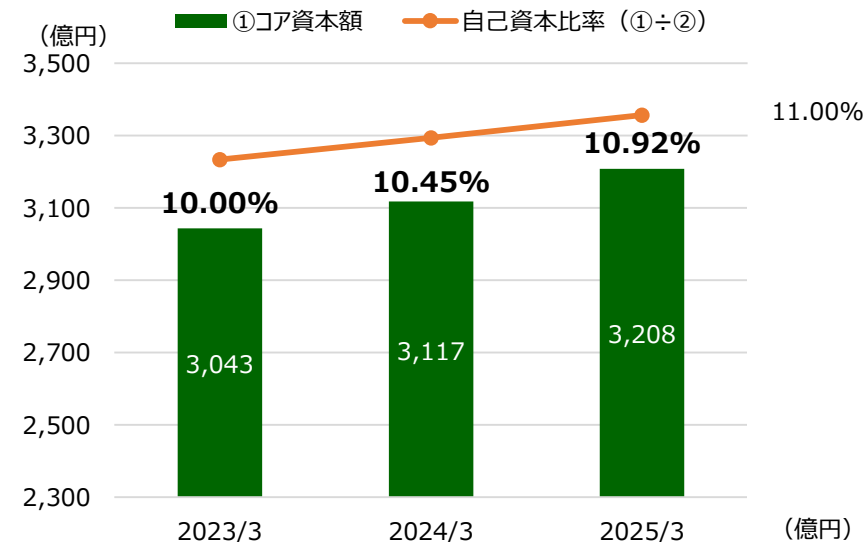


9. 自己資本比率

【肥後銀行】

・ 自己資本比率は、前年度末比+0.47%の10.92%となった。

肥後銀行 自己資本比率の状況

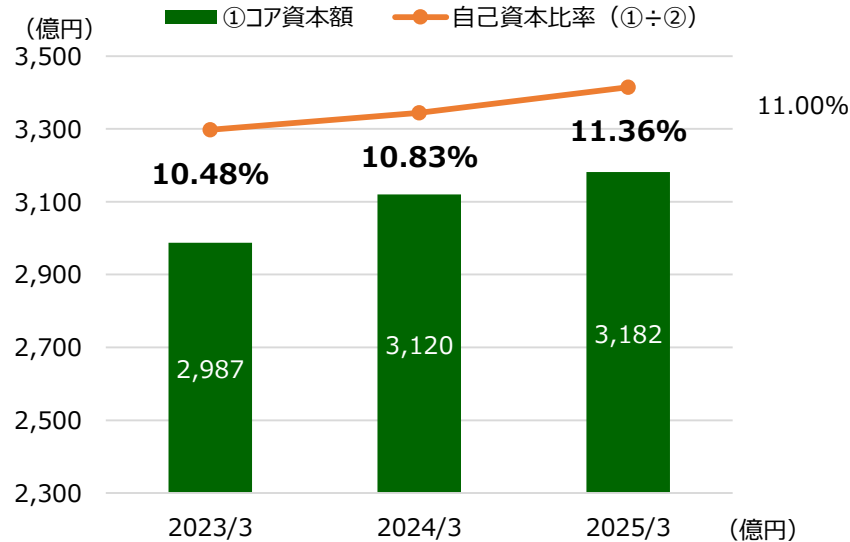


	2023/3	2024/3	2025/3	2024/3比 増減
①コア資本額	3,043	3,117	3,208	91
②リスクアセット	30,409	29,808	29,377	▲430
自己資本比率 (①÷②)	10.00%	10.45%	10.92%	0.47%

【鹿児島銀行】

・ 自己資本比率は、前年度末比+0.53%の11.36%となった。

鹿児島銀行 自己資本比率の状況



	2023/3	2024/3	2025/3	2024/3比 増減
①コア資本額	2,987	3,120	3,182	62
②リスクアセット	28,484	28,811	27,991	▲819
自己資本比率 (①÷②)	10.48%	10.83%	11.36%	0.53%

本資料には、将来の業績に関する記述が含まれています。

こうした記述は、将来の業績を保証するものではなく、リスクや不確実性を内包するものです。

将来の業績は、経営環境の変化等により、目標対比異なる可能性があることにご留意ください。



Kyushu FG

本件に関するお問い合わせ先

株式会社 九州フィナンシャルグループ 広報・IR部

TEL 096-326-5607